

目 次

〈 繊維情報 〉

・2006年10月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1
・2006年9月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	8
・アジア 中 国 2006年1~9月の繊維品貿易・輸出は1,000億ドルの大台突破、 輸入は2桁の伸び.....	11
香 港 2006年1~9月の繊維品貿易・輸出入共に微増推移.....	14
韓 国 2006年1~9月の繊維品貿易・輸出は苦戦、輸入は大幅に増加.....	17
台 湾 2006年1~9月の繊維品貿易・輸出は横ばい、輸入は微増推移.....	20
イ ン ド 2006年1~6月の繊維品貿易・輸出は大幅増を維持、輸入は微増推移.....	23
・米 州 米 国 2006年9月の繊維品輸入・中国が40%のシェア.....	26
2006年10月の大手小売店販売、引続き堅調.....	29
・欧 州 E U 2006年1~6月の繊維品域外貿易・輸出は微増、輸入は2桁増.....	32

〈 組合関係の会議と催事 〉

・(2006年11月)(2006年12月のスケジュール).....	35
-----------------------------------	----

〈 組合業務報告 〉

・消費財包括保険の地域差料率(国倍率)の引下げを要望(輸出).....	37
・「中国アジア専門委員会タイ・カンボジア調査ミッション」派遣概要(輸入).....	39
・「第15回貿易実務研修会」(東京/大阪/名古屋)を開催(輸入).....	41

〈 お知らせ 〉

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出).....	44
・1月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	45
・2006年税関の年末・年始事務処理要領(税関).....	46



◎ 2006年10月の繊維品輸出概況

I. 繊維品全体の輸出

－前年同月比2%増の6億5,349万ドルと3ヶ月連続で微増推移－

2006年10月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比2%増の6億5,349万ドル（1-10月前年同期比：1%減）で、3ヶ月連続で微増推移となった。

なお、為替が2005年10月の114.82円に対し、2006年10月は118.66円と約3%強の円安推移となっていることから、円ベースでは6%増（同6%増）の775億4,300万円と、今年に入り、2月以降連続して増加推移が続いている。

<主要地域・国別輸出>

10月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の75%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けは前年同月比2%減（同3%減）の4億7,826万ドルと先月に続き微減推移となったが、欧米、西アジアが健闘し、東アジアの減少をカバーした。

東アジアの主要国向けでは、香港、韓国、台湾、タイ、シンガポール、フィリピン、インドネシアが減少推移となり、最大市場の中国が微増、その他ベトナム、シンガポールが好調に推移したが、全体として微減推移となった。

純輸出市場向けは、シェア4%の西アジアは、サウジアラビアが大きく後退したが、アラブ首長国、イランが共に好調を維持し、全体として17%増（同21%増）の2,889万ドルと依然増勢を維持している。

欧米市場も揃って先月に続き好調な推移となり、シェア8%のEUは、主力の織物類、また原料類（綿・糸）が揃って好調に推移し、26%増（同3%増）の6,178万ドルと大幅に増加した。一方、同じくシェア8%の米国も、合繊綿、織物類が大幅に増加し、13%増（同6%増）の5,327万ドルと2桁の増加となった。

<主要品目別輸出>

これを主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で6%減（同2%減）となったが、単価の上昇により、金額では9%増（同4%増）と、数量減の金額増となった。

太宗の合繊綿は、数量で6%減（同1%減）、但し金額では11%増（同5%増）となった。

この内、主力のアクリル綿は、イラン、EU、米国が好調に推移したものの、最大市場の中国、インドネシア、タイが減少し、数量で10%減（同1%減）となった。但し単価の上昇により、金額は8%増（同5%増）となった。

一方、ポリエステル綿は、最大市場のタイ、中国が大幅に減少したが、米国、EUが好調に推移し、数量で横ばい（同3%増）となった。但し単価はアクリル綿同様に上昇し、金額では20%増（3%増）と大幅に増加した。

織維品輸出実績（2006年10月）

単位	2006年10月				2006年11月～10月				2005年実績				
	数量	金額		前年同月比	数量	金額		前年同期比	数量	金額		数量	
		百万円	千ドル			百万円	千ドル			百万円	千ドル		百万円
織維品総合計													
原料(綿)合計	33,436	77,543	653,486	102	344,316	6,606,307	106	99	416,305	890,100	8,070,165		
スフ綿	5,863	10,428	87,883	94	51,500	854,534	98	111	63,446	107,778	978,717		
合繊綿	24,993	2,413	20,333	102	267,544	182,874	98	111	316,728	23,495	212,920		
(ポリエステル)	3,733	7,841	66,078	94	39,388	655,565	99	112	45,356	81,370	739,213		
(アクリル)	18,720	789	6,650	100	203,871	62,805	103	111	7,900	7,900	71,868		
糸合計	10,457	5,686	47,919	90	111,026	475,505	99	112	242,939	59,092	536,513		
人絹糸	905	8,575	72,268	103	9,992	84,872	101	108	132,208	95,133	864,266		
スフ糸	20	35	294	60	245	8,442	94	108	12,825	9,694	87,856		
合繊長糸	8,561	6,677	56,267	107	91,802	312	77	82	306	430	3,918		
(ナイロン)	1,632	1,323	11,145	96	19,821	65,991	102	109	107,118	72,886	662,944		
(ポリエステル)	2,722	1,446	12,188	97	32,187	14,919	100	108	23,971	16,878	153,473		
合繊短糸	283	251	2,113	81	3,339	2,969	76	103	39,619	17,695	161,032		
綿糸	532	384	3,235	114	4,014	2,995	92	94	4,378	3,565	32,329		
織物合計	99,248	29,389	247,676	100	987,902	2,523,681	100	101	1,220,260	359,644	3,257,973		
絹織物	578	946	7,976	77	6,383	10,580	79	96	8,261	13,387	121,576		
人絹織物	6,080	2,348	19,786	99	60,482	21,576	105	104	81,049	25,408	230,287		
スフ織物	694	342	2,882	101	7,621	3,314	114	83	12,434	5,172	46,859		
合繊長織物	47,217	9,814	82,706	99	475,262	102,575	101	104	569,210	121,637	1,100,944		
(ナイロン)	5,419	1,117	9,413	112	59,016	12,546	124	133	58,693	11,881	107,382		
(ポリエステル)	36,929	7,357	62,001	99	366,619	75,593	98	102	447,797	91,064	824,217		
合繊短織物	14,536	3,303	27,832	103	142,625	33,005	105	103	166,976	39,477	358,090		
綿織物	24,877	8,800	74,161	102	251,234	88,149	105	100	324,399	112,859	1,023,683		
毛織物	5,153	3,752	31,617	87	41,261	31,407	89	91	54,172	38,815	350,009		
不織布	55,435	5,269	44,400	106	504,995	51,397	102	113	592,985	55,758	505,607		
タイヤコード織物	1,578	295	2,490	163	14,134	2,376	170	106	15,300	2,565	23,416		
コーヤツド織物	1,470	3,572	30,106	103	14,904	37,823	102	99	17,585	42,650	387,386		
ニット生地		5,703	48,061	103		59,064	103	112		66,435	600,666		
アパレル		3,616	30,476	93		34,347	93	101		40,709	370,175		
その他		10,694	90,126	101		104,812	101	108		119,428	1,081,958		

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。
 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。
 4. その他は、63類及び56類～59類の一部商品。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU、また東アジア向けが好調に推移し、数量で 41%増（同 2%減）、金額で 43%増（同 4%減）と数量、金額共に大きく伸長した。

スフ綿は、最大市場の中国が激減したが、EU、南アフリカが伸び、数量で 2%増（同 2%減）、金額で 6%増（同 4%増）となった。

糸類の輸出は、数量で 3%増（同 1%増）、金額で 7%増（同 1%増）となった。

主力の合繊長繊維糸は数量で 7%増（同 2%増）、金額で 14%増（同 2%増）となった。

その内訳は、ポリエステル長繊維糸は、中国、タイは健闘したが、米国、EU が減少し、数量で 3%減（同 4%減）となった。但し金額では単価のアップにより、5%増（同 3%減）となった。一方、ナイロン長繊維糸は、タイ、台湾、EU が減少し、中国、フィリピンは健闘したが、数量で 4%減（同横ばい）となった。但し金額では 1%増（同 1%増）の微増となった。その他の合繊長繊維糸では、ポリウレタン糸は、中国、香港が減少し、数量で 18%減（同 11%減）、金額で 12%減（同 17%減）と低調な推移となったが、アクリル長繊維糸は EU が急増し、数量で 61%増（同 18%増）、金額で 64%増（同 16%増）と大幅な増加となった。

また、人絹糸は、中国が伸びたが、韓国が大幅に減少し、数量で 16%減（同 6%減）、金額 11%減（同 1%増）となった。

太宗の**織物類**の輸出は、数量で横ばい（同横ばい）、金額でも横ばい（同 5%減）と、数量、金額共に横ばい推移となった。

織物の内訳では、中心品目の**ポリエステル長繊維織物**は、数量で 1%減（同 1%減）、金額で 2%減（同 4%減）と微減推移となった。

地域的には、全体の 73%を占める東アジア向けは、香港、韓国、ベトナム、タイ、マレーシアが健闘したが、最大市場の中国、台湾、タイ、シンガポール、スリランカが減少し、東アジア全体としては 2%減（同横ばい）となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビアが大幅な減少となり、アラブ首長国は健闘したが、西アジア全体として 9%減（同 5%増）となった。

欧米市場向けは、EU は 7%増（同 13%増）、米国は 23%増（同 16%減）と揃って増加推移となった。

ナイロン織物は、数量で 12%増（同 23%増）、金額で 24%増（同 25%増）と引き続き好調を維持している。

シェア 85%の東アジア向けは、主力の中国、香港が揃って好調で、全体として 14%増（同 31%増）と 2 桁の増加を記録した。その他では、シェア 6%の米国が 43%減（同 27%減）と大きく減少した。

綿織物は、数量で 2%増（同 2%減）、金額で 5%増（同 7%減）となった。数量、金額が揃って増加に転じたのは 5 ヶ月振りである。

82%のシェアを占める東アジア向けは、中国、香港、ベトナムが好調に推移したが、タイ、韓国、マレーシア、フィリピン、インドネシア、台湾が後退し、東アジア全体として横ばい（同 2%減）となった。その他の市場では、シェア 11%の米国は 8%増（同 2%減）と先月に続き

好調な推移となった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で10%増（同7%増）、金額で7%増（同2%減）と数量、金額共に増加推移となった。

全体の61%を占める東アジア向けは、香港が減少したが、最大市場の中国が微増となり、その他ベトナム、シンガポールが好調で、東アジア全体として3%増（同1%増）となった。一方、シェア38%の民族衣装用の西アジアは、サウジアラビアが不振となっているが、アラブ首長国、クエートが好調を維持し、西アジア全体として15%増（同18%増）と好調に推移した。

人絹織物は、数量で1%減（同10%減）、金額で5%増（同3%減）と数量微減の金額増となった。

シェア74%の東アジアは、香港は不振となったが、中国が大幅に増加し、東アジア全体として7%増（同9%減）となった。シェア14%の西アジアは、アラブ首長国が停滞し、全体として16%減（同8%増）となった。一方、欧米市場は、米国は36%増（同12%減）、EUは9%増（同13%減）と共に増勢推移となった。

毛織物は、数量で13%減（同8%減）、金額で11%減（同9%減）と数量、金額共に2桁の減少となった。

地域的には、東アジアが97%とほぼ全量を占めている。中国、香港、ベトナム、韓国と主要国は軒並み減少し、東アジア全体として11%減（同8%減）となった。

不織布の輸出は、数量で6%増（同5%増）、金額で2%増（同6%増）と堅調な推移となった。

全体の54%を占める東アジアは、最大市場の中国、ベトナム、タイが伸びたが、香港、韓国、台湾、マレーシアが減少し、全体として1%減（同7%減）となった。

欧米市場は、シェア36%の米国は28%増（同35%増）と好調に推移、一方、シェア6%のEUは13%減（同1%減）となった。

コーテッド織物の輸出は、数量で3%増（同1%減）、金額で2%増（同1%減）と数量、金額共に堅調な推移となった。

全体の82%を占める東アジアは、最大輸出先の中国が大きく伸びたが、香港、ベトナム等が減少し、全体として横ばい（同1%増）となった。

欧米市場は、シェア5%のEUは10%減（同6%増）と減少したが、同じくシェア5%の米国は21%増（同26%減）と前月に続き増加推移となった。

ニット生地の輸出は、数量で2%増（同4%増）、金額で3%増（同5%増）と数量、金額共に堅調に推移した。

全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国では、最大市場の中国、韓国が好調な推移となった。一方、香港、ベトナム、台湾、タイ、インドネシアは減少推移となった。

また、欧米市場向けは、米国は大幅な増加基調を継続しており、EUも2桁の増加推移となった。

アパレルの輸出は、金額で7%減（同6%減）となった。

内容的には、布帛製衣類では、外衣類は、主要国の台湾、香港、中国、韓国、米国が軒並み後退し、金額で16%減（同2%減）となった。下着類は、香港は減少したが、台湾、韓国、中国が健闘し、金額で15%増（同7%増）となった。

一方、ニット製衣類では、外衣類は、中国、米国、EUが増加推移となったが、香港、台湾、韓国が振るわず、金額で12%減（同1%減）となった。また、下着類は、台湾が後退したが、香港、中国が伸び、金額で3%増（同19%減）となった。

その他二次製品は、金額で1%増（同1%増）の微増となった。

II. 原料（綿・糸）の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、ビニロン綿、スフ綿が増加推移となったが、ポリエステル綿が横這い推移、主力のアクリル綿が減少推移となり、全体では6%減の33,436トン、金額については9%増の8,788万ドルとなった。

2006年10月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2006年10月				2006年1～10月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	5,863	102	20,333	347	51,500	98	182,874	355
合繊綿	24,993	94	66,078	264	267,544	99	655,565	245
ポリエステル	3,733	100	6,650	178	39,388	103	62,805	159
アクリル	18,720	90	47,919	256	203,871	99	475,505	233
他合繊綿	2,539	123	11,509	453	24,284	100	117,254	483
人絹糸	905	84	6,771	748	9,992	94	72,752	728
合繊長糸	8,561	107	56,267	657	91,802	102	568,411	619
ナイロン	1,632	96	11,145	683	19,821	100	128,534	648
ポリエステル	2,722	97	12,188	448	32,187	96	131,897	410
他合長糸	4,206	121	32,933	783	39,794	109	307,981	774
綿糸	532	114	3,235	608	4,014	94	25,794	643

出所：財務省統計

<糸輸出>

糸は、合繊短繊維糸、人絹糸が減少推移、綿糸及び主力の合繊長繊維糸が増加推移となり、全体では3%増の10,457トン、金額については7%増の7,227万ドルとなった。

Ⅲ. 織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

10月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、ナイロン織物が好調な伸びを維持し、綿織物、ポリエステル短繊維織物も増加したが、ポリエステル長繊維織物、人絹織物、毛織物が伸び悩み、織物トータルとしては、数量で前年同月比横ばい（1-9月：前年同期比横ばい）、金額でも横ばい（同5%減）と数量、金額共に横ばい推移となった。

2006年10月の織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出状況

単位：1,000SM、1,000\$、前年比は数量比 %

	2006年10月			2006年1-10月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	578	7,976	77	6,383	91,138	95
人絹織物	6,080	19,786	99	60,482	185,784	90
スフ織物	694	2,882	101	7,621	28,563	76
合繊（長）織物	47,217	82,706	99	475,262	884,383	102
ポリ（長）織物	36,929	62,001	99	366,619	651,793	99
ナイロン織物	5,419	9,413	112	59,016	108,245	123
合繊（短）織物	14,536	27,832	103	142,625	284,378	105
ポリ（短）織物	13,653	25,826	110	133,443	265,501	107
綿織物	24,877	74,161	102	251,234	759,117	98
毛織物	5,153	31,617	87	41,261	270,707	92
コーテッド織物	1,470	30,106	103	14,904	326,274	99
ニット生地	15,123	48,061	102	152,169	509,158	104

- (注) 1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。
2. コーテッド織物の数量単位はトン。

なお、この織物トータルの中に含まれていない、ニット生地、コーテッド織物は、数量、金額共に各々堅調な推移となった。

市場的には、織物トータルでは、主力の東アジアは、主要国では、香港、ベトナム、韓国が数量、金額共に前年同月を上回り健闘した。一方、最大市場の中国は数量微減の金額微増、また、台湾、シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアは数量、金額共に前年を下回った。

純輸出市場では、これまで好調を持続してきた西アジアは、アラブ首長国は数量、金額共に前年同月を上回り増勢を維持しているが、サウジアラビアは数量、金額共に前月に続き前年同月を下回った。

欧米市場は、EUは主力のポリエステル長繊維織物、ナイロン織物、綿織物が伸び、また米国も綿織物、ポリエステル長繊維織物が増加し、揃って数量、金額共に前年同月を上回る好調な推移となった。

IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2006年10月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは、布帛及びニット製下着の増加があったが、布帛及びニット製外衣が不振に推移し、全体では前年同月比7%減の30,476千ドルとなった。他方、その他の品目については、敷物、漁網・その他の網・網地、細幅織物・紐類いずれも減少推移となった。

2006年10月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2006年10月		2006年1～10月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	17,719	92	169,630	97
外衣	10,692	84	103,006	98
下着	4,029	115	37,978	104
スカーフ・マフラー	479	64	6,180	93
ニット製衣類・付属品	12,758	93	125,787	90
外衣	6,095	88	46,720	99
下着	3,895	103	51,176	81
敷物	2,263	80	23,672	88
漁網・網・網地	2,804	94	37,288	119
細幅織物・紐類	14,849	96	147,575	95

◎ 2006年9月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

9月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比109.9%（前月比は105.9%）、ドルベース同104.3%（前月比は104.8%）、数量(重量)同103.0%（前月比は105.9%）と、円金額が14ヶ月連続で増加、ドル金額は7ヶ月連続増加、数量も3ヶ月連続で増加した。前月比は、秋冬物の入荷ピークを迎え金額、数量ともに増加した。

糸類は数量で前年同期比8.7%増と3ヶ月続けて増加。内訳は、毛糸、綿糸、人繊(長)糸、人繊(短)糸、その他の糸が増加、絹糸が減少した。織物類は同0.6%と微増ながら3ヶ月連続で増加した。毛織物、人繊(長)織物、人繊(短)織物、その他の織物が増加、絹織物、綿織物、黄麻織物、メリヤス生地が減少した。衣類は同2.9%増加となり2ヶ月ぶりに増加した。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同1.6%増で7ヶ月続けて増加した。

前月は前年同期比で円金額が5.4%増加したが、ドル金額が0.7%、数量も0.7%の微増でほぼ横這いとなったが、今回は円金額が9.9%、ドル金額が4.3%、数量も3.0%の増加となり、揃って前月より増加率が上昇した。なお、9月の為替相場は前年同月比5.4%円安の117円01銭であった。ドル金額の内訳を見ると、糸類が12.8%の大幅増、織物類は2.3%増、太宗を占める衣類は3.8%増、二次製品は6.4%増加し、繊維製品計では4.3%の増加となった。

2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比6.8%の減少となったものの前月に続いて3万梱台を維持し、前年同月比も5.6%の増加となった。これは、国内綿糸相場が堅調に推移したことに加え国内紡績の生産の縮小によるものと思われる。輸入綿糸の87%を占める純綿糸の輸入実績を前月に比較すると、国別では、2位のインドが2.3%の微増となったが、主力のパキスタンの2.8%をはじめ3位のインドネシア14.2%、中国も2.8%それぞれ減少となった。番手別では20番手中心6.7%、30番手中心10.9%、40番手中心6.2%、40番手以上7.3%と軒並み減少となった。糸種別にみてもカード糸4.1%、コーマ糸も9.4%の落ち込みとなった。また、混紡綿糸も9.3%のマイナスとなった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース20.6%増と5ヶ月連続の増加となり、4ヶ月続けて20%を超える大幅増となった。糸種別に見ると、紡毛糸が同72.9%増と引き続き大幅に増加し9ヶ月連続で増加、太宗を占める梳毛糸も同16.8%増となった。国別では、トップシェアの中国が同36.7%増と6ヶ月連続で増加、第2位のマレーシアは同3.2%減少。この他の主要国では台湾、イタリアが増加、タイ、インド、ペルーからの輸入は減少した。

- ▶ 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 10.4%、前年同期比も 7.8%のプラスとなった。主要品目を前月に比較すると量的に少ない人絹糸が 8.3%の減少となったものの、主力商品の台湾を中心とするポリエステル糸が我が国の荷動きが堅調なこともあり 14.1%、米国からの BCF ナイロンが主力のナイロン糸も 14.0%の増加となった。一方、人織(短)糸は主力商品の T/C,T/R のポリエステル紡績糸が同 18.0%と大きく増加となったが、ガムテープ、ふすま用のスフ糸が同 13.6%、マイヤー毛布向けのアクリル紡績糸も 3 ヶ月連続増加の調整もあり同 23.2%の減少、全体では前月比は横這いに留まったものの、前年同月比は 13.9%のプラスとなった。

3. うち織物類

- ▶ 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 2.4%減の 2 ヶ月連続のマイナス、前年同月比も 2 ヶ月マイナスの 6.5%の減少となった。これは、中国綿織物の現地企業からの出し値が増値税還付率の引き下げ、元高等により堅調なことによるものと思われる。国別で前月に比較すると首位で全体の 78%を占める中国は 1.3%微増のほぼ横這いとなったが、以下インドネシア、パキстанは減少となった。品種別にみると金巾は減少となったがポップリン、粗布・細布は増加した。
- ▶ 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 8.1%増加し、2 ヶ月ぶりの増加となった。中国からの輸入が同 16.5%増と 3 ヶ月ぶりに増加したのに加えて、イタリアからの輸入も 3.2%増とユーロ高の中でも増加し前月に引き続き増加となった。また、第 3 位のイギリスは同 42.0%の大幅減と 3 ヶ月ぶりに減少。品種別では、紡毛織物が同 2.3%減と 2 ヶ月ぶりに減少、主力の梳毛織物は同 9.2%増と 3 ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加した。
- ▶ 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 2.6%の微減、前年同月比は横這いとなった。品目別に前月に比較すると、主力商品のポリエステル織物が 3 ヶ月連続マイナスの 11.6%減となったものの、ナイロン織物は 3 ヶ月連続プラスの 23.4%の増加、ポリプロピレン等其他織物も 9.4%の増加となった。国別にみると首位の中国が 12.4%増、2 位以下は韓国 7.3%、台湾 8.1%ベトナム等その他の国も 11.7%とそれぞれ減少となった。一方、人織(短)織物は主力の T/C,T/R のポリエステル織物が T/C 織物の大幅減少もありマイナス 6.2%となったものの、インドネシアからのガムテープ、ふすま用のスフ織物が 17.9%のプラスなったことにより、全体では前月比が 1.4%の微増、前年同月比も 12.1%の増加となった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比(枚数)で 1.5%増、布帛製衣類も同 5.0%増、身の廻り品も重量ベース 4.1%増となり、衣類計で重量ベース 2.9%増加となった。ニット製衣類は 2 ヶ月ぶりに増加し、布帛製衣類、身の廻り品もともに前月の 6 ヶ月ぶりの減少から再び増加、衣類計も 2 ヶ月ぶりに増加した。

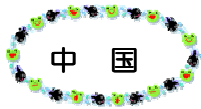
主要国別に見ると

- ▶ 中国は対前年同月比（枚数）でニット製衣類が 2.3%増加し 2 ヶ月ぶりの増加、布帛製衣類も 5.2%増加し 2 ヶ月ぶりの増加、身の廻り品も重量ベース 5.1%増で 2 ヶ月ぶりの増加となった。今年 1～9 月の衣類計（重量）のシェアは前月から 0.3 ポイント上昇し 91.1%（金額ベースでのシェアは同じく 0.5 ポイント上昇し 82.1%）。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同 5.0%減少、布帛製衣類も同 21.9%減となり、ニット製衣類、布帛製衣類ともに 5 ヶ月連続で減少した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同 17.7%減と 3 ヶ月連続で減少、布帛製衣類も同 2.2%減とこちらも 3 ヶ月連続で減少となった。
- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 11.7%減で 4 ヶ月連続で減少、布帛製衣類は同 18.3%増となり 3 ヶ月続けて増加した。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではジャケット、ズボン、ドレス、セーターが増加、コート、スーツ、アンサンブル、スカート、スポーツウェア、下着類が減少、アウターシャツはほぼ横這いとなった。中でも、ドレスは対前年同月比（枚数）で 2 倍超の 270.2%と前月に引き続き大幅増となった。布帛製外衣類では紳士用が同 8.1%増、婦人用は同 8.9%増加した。紳士用では、コート、ズボンが増加、スーツ、アンサンブル、ジャケット、下着類が減少、婦人用は、コート、ドレス、ズボン、ブラウスが増加、スーツ、アンサンブル、ジャケット、スカート、下着類が減少となった。

前月は数量が 0.7%、金額も円ベースで 5.4%、ドルも 0.7%とそれぞれ増加したものの数量、ドル金額はほぼ横這いとなったが、今月は数量が 3.0%増加、金額も円ベースで 9.9%、ドルでも 4.3%増加となり、円安により高い伸びを示した円金額を除いても、堅調な輸入となった。

また、今年の第 3 四半期（1～9 月）までで見ると、繊維製品全体では重量ベース前年同期比 2.1%、金額は円ベースで 11.9%、ドルベースで 4.2%とそれぞれ増加した。また、品目別に重量ベースで見ると、糸類が 4.6%の減少、織物が 0.5%の微増、衣類が 3.0%増加、二次製品類が 4.5%増加となった。

秋冬物の立ち上がりを見ると、11 月までは関東地方をはじめ全国的に気温が高かったため動きが鈍かった。昨年久々の厳冬で防寒用衣類を中心にマーケットが良かっただけに、その反動が懸念される。



◎ 2006年1～9月の繊維品貿易・輸出は1,000億ドルの大台突破、 輸入は2桁の伸び

【輸出】

－26%増の1,009億9,256万ドルと1,000億ドルの大台を突破－

主要市場の欧米向けに規制枠が再び設定され、その動向が注目される2006年の中国の繊維品輸出であるが、1～9月の輸出は前年同期比26%増の1,009億9,256万ドルと依然高率の伸びを維持し、早くも1,000億ドルを突破した。

単月での伸びを見ると、1月の24%増、2月4%増、3月36%増、4月27%増、5月31%増、6月25%増と、7月23%増、8月33%増、9月26%増と、2月に一度伸び率は鈍化したが、それ以降は依然大きな伸びを記録している。

地域別では、東アジアがシェア40%（前年同期比19%増）、ヨーロッパが同27%（同44%増）、北米が同16%（同13%増）、西アジアが同6%（同44%増）、中米が同3%（同52%増）、南米が同2%（同48%増）、アフリカが同5%（同32%増）、大洋州が同2%（同11%増）の市場構成となっており、各地域共に軒並み2桁の増勢推移となっている。

<地域別輸出状況>

国別では、1位EU（154億1,123万ドル：13%増）、続いて米国（135億5,967万ドル：9%増）、日本（134億8,895万ドル：8%増）、香港（130億1,688万ドル：24%増）、ルーマニア（38億7,731万ドル：706%増）、韓国（37億8,890万ドル：33%増）、ロシア（31億3,586万ドル：20%増）、カナダ（22億6,208万ドル：51%増）、アラブ首長国（19億5,771万ドル：17%増）、オーストラリア（17億3,690万ドル：11%増）、トルコ（15億8,953万ドル：238%増）、シンガポール（14億9,238万ドル：37%増）の順で、この12大市場で輸出全体の75%のシェアを占めている。

昨年は枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に、特に突出した伸びとなったが、今年はEU、米国向けに枠が再設定されたこともあり、両国への伸びは大幅に鈍化している。代わって、韓国、香港、シンガポール等の東アジア諸国、ロシア、ルーマニア、カザフスタン等の旧東欧諸国、トルコ、カナダ、中南米諸国等が大きく伸び、EU、米国向けの伸びの鈍化をカバーしているのが、特徴的な傾向である。

2006年9月の中国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出				前年比 数量 金額	
	2005年実績		2006年1月～9月		2005年実績		2006年1月～9月			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計	TON	23,446,081	4,416,112	6,817,524	4,508,291	19,764,933	141	135		
スフ綿	TON	164,419	467,136	89,704	262,445	72	73			
合繊綿	TON	835,306	1,381,998	498,936	882,459	76	82			
(ポリエステル)	TON	346,184	423,153	206,118	261,626	74	77			
(アクリル)	TON	464,623	878,156	274,251	549,162	76	81			
糸合計	TON	1,660,050	4,042,957	1,355,455	3,340,752	108	108			
人絹糸	TON	26,236	78,212	22,901	66,938	107	109			
スフ糸	TON	26,879	89,390	21,899	74,619	100	104			
合繊長繊維糸	TON	616,570	1,543,903	453,865	1,172,913	98	101			
(ナイロン)	TON	251,020	662,585	205,514	575,644	109	116			
(ポリエステル)	TON	295,494	522,692	205,685	368,727	94	94			
合繊短繊維糸	TON	149,671	376,436	105,000	287,068	84	92			
綿糸	TON	793,656	1,697,154	715,910	1,532,021	122	122			
織物合計	千LM	4,638,058	6,009,460	3,203,418	4,342,585	95	98			
絹織物	千LM	45,693	117,096	26,875	77,082	90	93			
人絹織物	千LM	82,694	122,550	57,747	102,050	91	112			
スフ織物	千LM	58,124	100,319	34,643	65,890	77	85			
合繊長繊維織物	千LM	2,016,102	2,029,732	1,437,916	1,491,911	97	98			
(ナイロン)	千LM	660,899	585,866	418,217	411,453	83	92			
(ポリエステル)	千LM	912,650	1,028,690	716,042	766,835	110	101			
合繊短繊維織物	千LM	695,082	792,728	463,324	571,255	88	95			
綿織物	千LM	1,564,514	2,159,441	1,075,829	1,562,113	97	101			
毛織物	千LM	70,407	535,575	51,931	390,599	96	96			
不織布	TON	135,081	490,543	114,756	442,799	114	122			
タイヤコード織物	TON	18,313	71,770	13,614	54,906	100	104			
コーテッド織物	TON	264,082	1,025,710	178,490	803,786	91	106			
ニット生地	TON	460,587	1,879,207	370,209	1,573,999	108	112			
ニット製衣料			695,240		557,494		112			
布帛製衣料			816,218		658,435		114			
その他			1,597,452		1,283,297		108			

出所:中国海関統計

<品目別輸出状況>

品目別では、中国の繊維品輸出全体の64%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品は、米国、EU向けの伸びが枠の再設定により昨年に比べ大幅に減速しているにも拘らず、東アジア諸国、旧東欧諸国、カナダ等その他の諸国が大幅に伸び、32%増の645億7,597万ドルと大幅な伸びを記録し、依然中国の繊維品輸出を牽引している。

内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が42%増の321億6,546万ドルと大きく伸びており、また布帛製衣料品及び同付属品の輸出も23%増の324億1,052万ドルと高い伸びを維持している。

衣料品の主要輸出先は、ニット製衣料品は、トップ市場は日本(51億9,936万ドル:9%増)、続いてEU(40億7,177万ドル:2%増)、米国(36億6,305万ドル:横ばい)、香港(35億3,562万ドル:63%増)、ルーマニア(27億1,907万ドル:11倍増)、ロシア(13億4,535万ドル:83%増)、韓国(11億1,003万ドル:49%増)、カナダ(7億9,776万ドル:65%増)、カザフスタン(7億2,091万ドル:85%増)、オーストラリア(7億1,785万ドル:6%増)の順となっており、米国、EUは昨年への激増もあり、横ばい推移となっているが、代わって東アジアの香港、韓国、東欧のロシア、ルーマニア、カザフスタン、またカナダ等が激増しているのが注目される。

また、布帛製衣料品の輸出先は1位がEU(69億8,517万ドル:19%増)、日本(59億3,180万ドル:5%増)、米国(56億3,380万ドル:9%増)、香港(29億4,673万ドル:24%増)、韓国(11億5,222万ドル:37%増)、ロシア(11億1,430万ドル:9%減)、ルーマニア(10億7,576万ドル:596%増)、カナダ(10億4,776万ドル:58%増)、オーストラリア(5億9,656万ドル:10%増)、シンガポール(5億4,437万ドル:81%増)の順で、ここでも、米国、EUの減速、一方、韓国、香港、シンガポール、カナダ、ルーマニア向けの増加が目立っている。

織物類の輸出は、太宗の綿織物、合繊短繊維織物が好調に推移、ポリエステル長繊維織物も堅調で、全体として、数量で9%増の134億190万メートル、金額で12%増の126億7,060万ドルと数量、金額共に順調に推移している。

糸類の輸出も各品目共に好調で、合繊長繊維糸、特にポリエステル長繊維糸の増加が著しく、また太宗の綿糸、合繊短繊維糸も大幅に増加しており、全体として数量で27%増の133万1,919トン、金額で24%増の46億8,881万ドルと、数量、金額共に好調な推移となっている。

綿類の輸出も、ポリエステル綿を中心とする合繊綿、またスフ綿の輸出が何れも大きく伸び、数量で42%増の36万8,975トン、金額で17%増の9億8,930万ドルと、規模は未だ小さいが、高い伸びを記録している。

【輸 入】

—綿花の激増により14%増の197億6,493万ドルと2桁の伸びを記録—

繊維品の輸入は、織物類は減少しているが、原料類で、国内の綿花不足から特に米国からの綿花の輸入が激増していることもあり、全体として14%増の197億6,493万ドルと大幅な伸びとなっている。

この結果、中国の1～9月の繊維品貿易収支の黒字額は前年同期比30%増の812億2,763万ドルとなっている。

<地域別輸入状況>

地域別では、東アジアがシェア67%（前年同期比：7%増）を占め、西アジアが同3%（同43%増）、ヨーロッパが同7%（同11%増）、北米が同14%（同65%増）、中米が同0.2%（同49%減）、南米が同1%（同39%増）、アフリカが同3%（同39%増）、大洋州が同5%（同4%増）の市場構成となっている。

国別では、1位日本（26億9,162万ドル：4%減）、続いて米国（26億8,029万ドル：67%増）、台湾（25億4,399万ドル：1%増）、韓国（20億7,789万ドル：6%減）、香港（13億8,202万ドル：4%増）、EU（11億9,907万ドル：10%増）、オーストラリア（9億4,875万ドル：3%増）、インド（7億4,148万ドル：256%増）、パキスタン（5億4,405万ドル：29%増）、ウズベキスタン（4億3,473万ドル：38%増）の順で、この10大市場で全体の輸出の77%を占めている。

<品目別輸入状況>

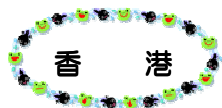
品目別の輸入を見ると、綿関係では、化合繊綿は低調な推移となっているが、天然繊維は米国、インド等よりの綿花の輸入が著増しており、全体として、数量で41%増の450万8,291トン、金額で35%増の67億688万ドルと大幅な増加となっている。

糸関係は、太宗の綿糸が大きく増加しており、合繊長繊維糸はほぼ横ばいで推移しているが、全体として数量で8%増の135万5,455トン、金額も8%増の33億4,075万ドルと数量、金額共に増勢で推移している。

織物類は、綿織物、合繊長繊維織物、合繊短繊維織物等各品目が総じて低調な推移となっており、トータルでは、数量で5%減の32億342万メートル、金額で2%減の43億4,259万ドルとなっている。

その他品目では、ニット生地が金額で12%増の15億7,400万ドル、コーテッド織物が6%増の8億379万ドルとなっている。

また、衣料品は、額は未だ小さいが、ニット製衣料品が12%増の5億5,749万ドル、布帛製衣料品が14%増の6億5,844万ドルと何れも2桁の伸びを記録している。



◎ 2006年1～9月の繊維品貿易・輸出入共に微増推移

香港の2006年1～9月の繊維品貿易は、輸出が前年比3%増の303億601万ドル、輸入が1%増の239億1,269万ドルと、輸出入共に揃って微増推移となっている。

2006年1～9月の香港の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出				前年比	
	2005年実績		2006年(1～9)		2005年実績		2006年(1～9)			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計	TON	31,357,735	226,572	310,947	TON	30,360,077	127,335	149,898	121	99
スフ綿	TON	54,066	14,695	13,446	TON	16,536	4,871	16,536	89	91
合繊綿	TON	113,580	75,531	42,978	TON	63,432	34,904	63,432	65	74
(ポリエステル)	TON	79,735	66,442	34,426	TON	36,927	26,933	36,927	59	66
(アクリル)	TON	10,505	5,448	4,537	TON	10,998	4,449	10,998	93	94
糸合計	TON	4,037,650	1,061,309	849,610	TON	2,858,582	780,859	3,522,889	105	103
人絹糸	TON	62,801	10,268	7,746	TON	37,654	7,219	52,685	110	92
スフ糸	TON	142,437	24,074	19,118	TON	93,956	16,405	117,533	98	100
合繊長繊維糸	TON	658,052	167,213	129,055	TON	463,407	121,256	602,716	108	101
(ナイロン)	TON	295,544	78,859	66,239	TON	226,768	63,336	272,964	116	110
(ポリエステル)	TON	130,345	56,626	41,435	TON	84,630	37,577	110,415	109	106
合繊短繊維糸	TON	441,876	107,072	82,187	TON	318,130	73,603	418,844	92	92
綿糸	TON	1,621,577	701,304	572,132	TON	1,527,584	529,157	1,812,539	107	110
織物合計	TON	3,581,522	823,764	4,980,199	TON	3,583,708	601,043	5,178,152	96	95
絹織物	TON	176,462	4,478	3,065	TON	95,818	2,595	136,909	99	99
人絹織物	TON	93,368	14,191	8,817	TON	69,152	5,865	111,415	68	80
スフ織物	TON	40,717	5,865	4,548	TON	34,981	3,457	49,150	90	98
合繊長繊維織物	TON	757,313	176,542	1,007,203	TON	591,437	111,656	843,773	93	92
(ナイロン)	TON	287,021	68,965	347,339	TON	196,257	47,108	267,836	108	97
(ポリエステル)	TON	334,913	83,902	480,555	TON	276,725	48,490	412,199	85	88
合繊短繊維織物	TON	326,602	70,666	436,522	TON	310,976	57,432	401,085	110	102
綿織物	TON	1,928,728	513,033	2,707,126	TON	2,240,201	398,979	3,227,765	96	96
毛織物	TON	166,230	8,011	207,825	TON	112,567	4,984	146,633	94	91
不織布	TON	134,815	26,595	22,491	TON	137,515	20,336	165,232	114	110
タイヤコード織物	TON	5,839	3,082	1,468	TON	8,296	1,715	14,588	77	81
コーテッド織物	TON	420,113	117,012	513,200	TON	369,945	73,028	474,347	91	103
ニット生地	TON	2,134,273	533,361	2,728,795	TON	2,304,244	411,858	2,908,245	106	107
ニット製衣料		6,951,023		9,245,559		10,026,463		13,327,876		103
布帛製衣料		6,168,565		8,027,108		9,736,494		12,260,157		105
その他		997,021		1,329,118		1,184,931		1,553,771		100

出所:香港通関統計

輸 出

地域別の輸出先をみると、全体の44%を占める東アジア向けは1%増の132億2,815万ドル、27%を占める北米は3%増の81億5,294万ドル、23%を占めるヨーロッパは6%増の69億8,080万ドルで、この3地域で全体の94%を占めている。

主要国別輸出では、1位の中国は2%増の90億5,907万ドルと微増、続く米国も2%増の74億6,731万ドル、EUは6%増の66億5,160万ドルで上位3国は何れも微増推移となっている。

以下、日本が横ばいの12億2,397万ドル、カナダが12%増の6億8,561万ドル、オーストラリアが4%減の4億8,324万ドル、台湾が7%減の3億3,700万ドル、バングラデシュが11%増の3億1,661万ドル、カンボジアが9%増の2億9,531万ドルの順となっている。

品目別輸出では、輸出全体の65%を占める最大輸出品目の衣料品は、ニット製衣料品が3%増の100億2,646万ドル、布帛製衣料品が5%増の97億3,649万ドルで、共に堅調に推移している。

織物類の輸出は、合繊短繊維織物は増加を記録しているが、主要織物の綿織物及び合繊長繊維織物が数量、金額共に減少し、織物全体として、数量で4%減の60万1,043トン、金額で5%減の35億9,371万ドルとなった。

原料関係では、糸類の輸出は、最大輸出品目の綿糸、また合繊長繊維糸が数量、金額共に増加を記録し、全体として、数量で5%増の78万859トン、金額で3%増の28億5,858万ドルとなった。また、綿類の輸出は、数量で21%増の12万7,335トンとなったが、金額では1%減の1億4,990万ドルと数量増の金額減となった。

輸 入

輸入については、地域別では、92%と圧倒的なシェアを占める東アジアからの輸入が2%増の219億8,442万ドル、シェア6%のヨーロッパが1%増の15億365万ドルで、両地域からの輸入が98%を占め、共に微増推移となっている。

国別では1位が中国で2%増の169億3,160万ドル（シェア71%）、2位は香港（注：香港の統計では、第三国（ほとんどが中国と思われる）に原材料を輸出し完成品を輸入した場合、その付加価値部分は、中国からの輸入となるが、原材料輸出部分は香港の輸入として分類される。）で11%増の15億7,681万ドル、続いてEUで横ばいの13億9,433万ドル、以下台湾7%減の11億5,329万ドル、日本6%減の6億2,226万ドル、韓国11%減の5億8,371万ドル、パキスタン17%増の4億3,022万ドル、米国4%減の2億6,491万ドル、インド53%増の1億6,630万ドルとなっている。

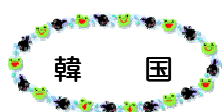
品目別輸入では、全体の55%を占める最大品目の衣料品は、ニット製衣料品が1%増の69億5,102万ドル、布帛製衣料品も1%増の61億6,857万ドルで、各々ほぼ前年水準並みの推移

となっている。

その他品目では、織物類の輸入は、最大品目の綿織物、また合繊長繊維織物もほぼ前年並みの水準に止まっており、全体として、数量で1%減の59万5,032トン、金額でも1%減の35億8,152万ドルとなっている。

原料関係では、糸類は、最大品目の綿糸の輸入が数量、金額共に伸びたが、合繊長繊維糸は数量微増の金額減となり、全体として、数量で3%増の84万9,610トン、金額で横ばいの32億3,731万ドルとなった。

また、綿類の輸入は、合繊綿が大幅な減少推移となったが、綿花を中心に天然繊維が大きく伸び、数量で35%増の22万126トン、金額で22%増の2億8,221万ドルとなった。



◎ 2006年1～9月の繊維品貿易・輸出は苦戦、輸入は大幅に増加

【輸出】

—前年同期比5%減の98億4,205万ドルと苦戦—

韓国の通関統計によれば、2006年1～9月の繊維品輸出は、中国を始めとする東アジア諸国との競合の激化により、原料、織物、衣料品類が揃って低調な推移となっており、前年同期比5%減の98億4,205万ドルと今年も苦戦を余儀なくされている。

地域別では、シェア55%を占める東アジア向けが2%減の54億3,982万ドル、同16%の北米が12%減の15億7,179万ドル、同12%の欧州が12%減の11億4,279万ドル、同7%の西アジアが2%減の6億9,797万ドルと、主要地域は何れも後退推移となっている。

主要国では、第1位市場の中国が3%減の21億3,619万ドル、続く米国が13%減の14億7,590万ドル、EUが11%減の7億9,325万ドルと上位3市場が共に不振で、以下ベトナムが6%増の6億3,774万ドル、香港が11%減の6億2,648万ドル、インドネシアが20%増の5億5,447万ドル、日本が11%減の4億8,867万ドル、アラブ首長国が3%減の2億5,517万ドルの順となっている。

品目別輸出では、原料関係では、綿類は数量で6%減の49万8,448トン、金額で7%減の6億6,246万ドルとなった。太宗品目の合繊綿は、中心品目のポリエステル綿は微増で推移しているが、アクリル綿が激減し、数量で5%減の48万2,703トン、金額で7%減の6億2,535万ドルとなった。合繊綿の最大市場は米国で、数量で11%増の10万4,600トン、金額で10%増の1億2,525万ドルと数量、金額共に大幅に増加したが、続く市場の中国は数量で32%減の

2006年1～9月の韓国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸				入			
	2006年(1～9)		前年比		2006年(1～9)		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計	707,590	13,700,612	498,448	9,842,053	396,610	6,927,292	5,873,527	115
原料(綿)合計	10,132	33,508	6,016	24,264	48,565	122,291	35,898	77
スフ綿	681,815	887,507	482,703	625,350	19,590	48,657	11,756	98
合繊綿	559,301	681,278	423,394	519,177	3,346	5,958	3,092	78
(ポリエステル)	86,265	149,917	28,528	55,366	8,158	19,316	4,912	117
(アクリル)	459,760	1,396,060	307,699	985,266	517,430	1,450,949	421,771	79
糸合計	1,213	9,427	751	6,477	31,219	128,526	19,464	80
人絹糸	4,934	27,631	4,540	25,896	16,557	43,900	17,115	87
スフ糸	398,396	1,113,930	267,233	775,507	116,298	343,997	108,584	104
合繊長繊維糸	58,087	202,578	46,823	166,378	20,787	88,262	17,811	135
(ナイロン)	274,675	562,008	182,094	388,915	79,005	139,296	77,264	118
(ポリエステル)	16,624	84,588	11,452	69,478	142,871	352,690	100,329	112
合繊短繊維糸	33,814	111,133	20,130	69,673	198,787	480,752	166,253	122
綿糸								115
織物合計	1,817	138,058	1,178	96,111	2,103	96,806	1,358	109
絹織物	223,281	160,185	147,164	103,685	3,787	10,580	3,782	104
人絹織物	13,617	144,529	8,828	98,567	5,770	34,898	3,728	85
スフ織物	2,179,057	1,764,704	1,457,057	1,186,546	248,505	142,407	710,061	101
合繊長繊維織物	138,878	115,504	142,406	94,768	6,005	11,187	47,914	103
(ナイロン)	1,625,285	1,427,245	1,030,602	913,475	207,261	91,713	142,602	139
(ポリエステル)	37,436	225,169	26,257	158,588	46,394	162,882	32,280	105
合繊短繊維織物	69,897	655,849	47,288	448,427	98,209	425,261	67,122	98
綿織物	4,563	87,560	2,936	57,264	3,501	113,309	3,359	90
毛織物	73,242	396,024	59,944	329,814	28,274	123,174	23,028	96
不織布	79,993	292,488	61,625	229,876	13,277	57,168	12,397	132
タイヤコード織物	131,839	877,441	85,709	640,049	9,313	68,043	7,379	109
コーテッド織物		2,688,723		2,172,307		76,160		103
ニット生地		1,366,504		874,063		851,896		107
ニット製衣料		973,522		623,841		1,867,241		123
布帛製衣料		1,572,132		1,165,911		640,001		132
その他								115

出所:韓国通関統計

9万8,481トン、金額で35%減の9,848万ドルと大幅に減少し、昨年までのトップ輸出市場から転落した。第3位はEUで数量で2%増の8万9,828トン、金額で2%減の1億879万ドルと数量増の金額減となった。この3カ国で数量ベースで全体の61%を占めている。

糸類の輸出は、数量で11%減の30万7,699トン、金額で8%減の9億8,527万ドルと数量、金額共に減少推移となった。太宗品目は合繊長繊維糸で、ポリエステル長糸を中心に、数量で11%減の26万7,233トン、金額で9%減の7億7,551万ドルとなった。合繊長繊維糸の最大市場は中国で、数量で24%減の5万644トン、金額で22%減の1億5,767万ドルと大きく後退、第2位はEUで、数量で5%増の4万998トン、金額で3%減の1億1,403万ドルと数量増の金額減、第3位は米国で、数量で1%減の3万3,889トン、金額で8%減の7,890万ドルと数量、金額共に減少推移となった。

織物類の輸出も、金額で10%減の21億5,829万ドルと不振推移となっている。中でも、韓国繊維品輸出の代表的品目でありその動向が注目されるポリエステル長繊維織物は、数量で13%減の10億3,060万SM、金額で16%減の9億1,348万ドルと引き続き低調な推移となり、回復の気配が見えない。

ポリエステル長繊維織物の主要輸出国別は、1位が中国で10%増の1億5,861万SM、2位がアラブ首長国で1%減の9,891万SM、3位が米国で17%減の9,331万SM、4位が香港で13%増の9,249万SM、5位がサウジアラビアで19%減の8,250万SM、6位がインドネシアで5%減の5,970万SMとなっている。その他主要市場は、EU（5,697万SM：25%減）、ベトナム（5,635万SM：6%減）、トルコ（3,915万SM：37%減）等である。

その他主要織物類では、綿織物が8%減の4万7,288トン、合繊短繊維織物が7%減の2万6,275トン、人絹織物が15%減の1億4,716万SMと何れも減少推移となっている。

このように綿・糸・織物類が総じて不振の中で、ニット生地は金額で7%増の21億7,231万ドルと唯一好調に推移しており、品目別で最大の輸出品目となっているのが注目される。

なお、衣料品の輸出は、布帛製衣料品が16%減の6億2,384万ドル、ニット製衣料品も14%減の8億7,406万ドルと何れも減少推移となっている。

【輸 入】

—15%増の58億7,353万ドルと衣料品を中心に大幅増加—

韓国の繊維品の輸入は、主に中国からの衣料品輸入の増加により、前年同期比15%増の58億7,353万ドルと大幅に増加している。

地域別では、シェア79%を占める東アジアは21%増の46億4,768万ドル、同12%の西欧は8%増の7億2,016万ドルと増加推移、シェア5%の北米は18%減の2億8,664万ドルと大幅な減少となった。

国別では、最大輸入先の中国が27%増の33億4,190万ドルと大幅に増加、EUが8%増の6億4,839万ドル、日本が1%減の3億1,628万ドル、米国が18%減の2億6,567万ドル、インドが18%増の2億2,742万ドル、インドネシアが21%増の1億9,333万ドル、台湾が

横ばいの 1 億 3,666 万ドル、ベトナムが 27%増の 1 億 2,267 万ドルとなっている。

品目別輸入では、綿類は数量で 23%減の 24 万 3,342 トン、金額で 11%減の 5 億 3,281 万ドルと低調な推移となった。その大半は綿花を中心とする天然繊維原料の輸入である。

糸類の輸入は数量で 9%増の 42 万 1,771 トン、金額で 15%増の 12 億 3,187 万ドルと数量、金額共に増加推移となった。内訳は、最大品目の綿糸が数量で 16%増の 16 万 6,253 トン、金額で 29%増の 4 億 4,617 万ドルと大きく伸び、合繊長繊維糸も数量で 18%増の 10 万 8,584 トン、金額で 13%増の 2 億 9,867 万ドルと高い伸びを記録した。

その他の糸では、合繊短繊維糸が数量で 5%減の 10 万 329 トン、金額で 2%減の 2 億 5,567 万ドル、人絹糸が数量で 21%減の 1 万 9,464 トン、金額で 13%減の 8,406 万ドルとなった。

織物類の輸入は、金額で 4%増の 8 億 1,019 万ドルの微増となった。主要織物の内訳は、綿織物が数量で 10%減の 6 万 7,122 トン、金額で 4%減の 3 億 727 万ドル、ポリエステル長繊維織物が数量で 9%減の 1 億 4,270 万 SM、金額で 5%増の 7,385 万ドル、合繊短繊維織物が数量で 10%減の 3 万 2,280 トン、金額で 2%減の 1 億 2,326 万ドルとなった。

また、衣料品の輸入は、中国からの輸入が急増しており、ニット製衣料品が 23%増の 7 億 8,746 万ドル、布帛製衣料品は 32%増の 17 億 980 万ドルと何れも大幅な増加となっている。



◎ 2006 年 1～9 月の繊維品貿易・輸出は横ばい、輸入は微増推移

【輸出】

—前年同期比横ばいの 88 億 5,621 万ドル—

台湾の通関統計によれば、2006 年 1～9 月の台湾の繊維品輸出は前年同期比横ばいの 88 億 5,626 万ドルに止まっており、ここ数年の不振から脱出できるかどうか、先行きが注目されるところである。

市場的には、全体の 71%を占める東アジア向け輸出は、主要国では、中国が 16%増（15 億 9,652 万ドル）と伸び、他にベトナムが 14%増（7 億 7,497 万ドル）、日本 3%増（2 億 5,494 万ドル）、タイ 8%増（2 億 2,608 万ドル）、カンボジア 17%増（2 億 1,594 万ドル）と増勢で推移し、一方、最大市場の香港は 11%減の 18 億 2,168 万ドルと大きく減少、またインドネシア 2%減（3 億 6,143 万ドル）、韓国 2%減（1 億 3,394 万ドル）と減少推移となったが、全体としては 2%増の 62 億 4,532 万ドルとなった。

その他の主要市場では、シェア 12%を占める米国は 10%減の 10 億 7,305 万ドルと苦戦、一方 5%を占める EU は横ばいの 4 億 7,258 万ドルと伸び悩んでいる。

2006年1～9月の台湾の繊維品輸出入状況

	輸 入						輸 出									
	2005年実績			2006年(1～9)			2005年実績			2006年(1～9)			前年比			
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	
繊維品合計																
原料(綿)合計	TON	2,610,870		TON	393,618	533,077	289,282	399,524	91	103						
スフ綿	TON	13,783	27,770	10,768	21,909	98	98									
合繊綿	TON	30,534	66,019	15,236	37,143	68	73									
(ポリエステル)	TON	12,026	16,201	6,171	9,162	79	83									
(アクリル)	TON	4,867	11,970	566	1,452	15	16									
糸合計	TON	116,493	385,532	78,095	279,828	86	94									
人絹糸	TON	2,453	9,446	1,403	5,592	72	77									
スフ糸	TON	2,029	5,822	858	2,934	50	61									
合繊長繊維糸	TON	50,306	210,768	39,979	172,005	108	111									
(ナイロン)	TON	23,764	91,191	21,403	85,665	131	136									
(ポリエステル)	TON	14,344	38,517	8,859	24,152	79	82									
合繊短繊維糸	TON	21,449	48,879	11,084	26,902	61	65									
綿糸	TON	38,335	102,742	23,648	67,831	77	82									
織物合計		179,438			120,955		88									
絹織物	千SM	463	3,478	443	3,124	129	129									
人絹織物	千SM	8,651	8,877	5,964	5,840	90	87									
スフ織物	千SM	1,974	6,154	1,012	3,919	61	81									
合繊長繊維織物		42,335			35,217		107									
(ナイロン)	千SM	6,594	6,749	35,988	11,986	705	241									
(ポリエステル)	千SM	23,042	22,198	16,538	13,209	98	79									
合繊短繊維織物	千SM	124,927	32,881	76,122	22,626	74	90									
綿織物	千SM	89,493	72,194	63,018	41,822	86	75									
毛織物	千SM	2,634	11,652	1,496	7,354	67	76									
不織布	TON	18,238	74,517	13,686	56,310	100	100									
タイヤコード織物	TON	9,958	41,131	7,396	30,981	103	98									
コート織物	TON	5,019	48,946	4,614	27,122	129	74									
ニット生地		34,529			23,791		90									
ニット製衣料		427,418			340,448		114									
布帛製衣料		602,058			488,446		116									
その他		284,222			218,725		107									

出所：台湾通関統計

品目別輸出では、原料関係は、綿類が数量で3%増の60万8,722トン、金額で5%増の8億9,339万ドルと数量、金額共に増勢で推移した。

太宗の合繊綿は、アクリル綿が好調に推移しているが、中心品目のポリエステル綿が減少し、数量で4%減の49万2,707トン、金額で1%減の6億9,071万ドルとなった。合繊綿の主要市場は、数量で中国、EU、ベトナム、香港、米国の順で、この5カ国で数量的に全体の70%近くを占めている。EU、米国は、数量、金額共に増勢推移となったが、中国、ベトナム、香港は、数量、金額共に減少推移となった。

糸類の輸出は、数量で3%増の75万9,655トン、金額で1%増の16億5,541万ドルと数量、金額共に微増推移となった。綿糸の輸出は、数量で31%増の6万9,304トン、金額で26%増の1億2,168万ドルと大幅に増加したが、最大品目の合繊長繊維糸は、ナイロンが微増となったが、ポリエステルが微減となり、数量で1%減の62万2,554トン、金額で1%減の増の13億1,936万ドルと数量、金額共に微減推移となった。

合繊長繊維糸の主要市場は、中国、香港、ベトナム、日本、EU、韓国の順で、この6カ国で金額的に全体の74%を占めている。中国、ベトナム、韓国は数量、金額共に増加、香港、日本、EUは数量、金額共に減少推移となった。

織物類の輸出は、金額で2%増の19億9,303万ドルとなっている。

内訳は、中心品目のポリエステル（長）織物が数量で2%増の8億2,051万SM（平方メートル）、金額で2%増の5億9,909万ドル、ナイロン（長）織物は数量で19%増の6億5,397万SM、金額で17%増の3億9,822万ドルと、特にナイロン織物が好調に推移している。

ポリエステル（長）織物の主要市場は、数量ベースで、香港、中国、EU、ベトナム、米国、インドネシア、アラブ首長国、メキシコの順で、このうち、中国、ベトナムは数量、金額共に大幅増加推移、EU、米国、メキシコは数量増の金額減、香港、インドネシア、アラブ首長国は数量、金額ともに後退している。

その他の主要織物は、綿織物が数量で3%増の2億6,197万SM、金額で3%減の3億6,111万ドルと数量増の金額減、また合繊短繊維織物が数量で13%減の2億4,521万SM、金額で6%減の2億1,150万ドルとなった。また、ニット生地は金額で5%増の14億8,291万ドルと増勢推移、コーテッド織物は金額で11%減の7億7,022万ドルと減少推移となっている。

なお、衣料品の輸出は、布帛製衣料品が22%減の2億8,514万ドルと大きく減少し、ニット製衣料品は2%減の6億202万ドルと微減推移となっている。

【輸 入】

—3%増の19億8,613万ドルと微増推移—

繊維品の輸入は3%増の19億8,613万ドルと微増推移となっている。

地域別輸入では、全体の67%を占める東アジアからの輸入は、主要国では、香港、日本、韓国、インドネシア等が総じて減少推移となっているが、中国が倍増と急増し、ベトナムも大きく伸びたため、全体としては8%増の13億4,015万ドルとなった。一方、欧米からの輸入は、シェア12%のEUは8%減の2億3,696万ドルと減少推移となっているが、シェア

10%の米国は1%増の1億9,500万ドルと微増推移となっている。

品目別輸入では、綿類は天然繊維原料を中心に数量で9%減の28万9,282トン、金額で5%減の3億9,952万ドルと数量、金額共に減少している。

糸類の輸入も、数量で14%減の7万8,095トン、金額で6%減の2億7,983万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。内訳は、合繊長繊維糸の輸入は、ナイロン長繊維糸の増加により、数量で8%増の3万9,979トン、金額で11%増の1億7,200万ドルと増加しているが、その他の糸は、綿糸が数量で23%減の2万3,648トン、金額で18%減の6,783万ドル、合繊短繊維糸が数量で39%減の1万1,084トン、金額で35%減の2,690万ドルと何れも大きく減少している。

織物類の輸入も、金額で12%減の1億2,096万ドルと低調な推移となっている。内訳は、綿織物が数量で14%減の6,302万SM、金額で25%減の4,182万ドル、合繊短繊維織物が数量で26%減の7,612万SM、金額で10%減の2,263万ドル、またポリエステル長繊維織物が数量で2%減の1,654万SM、金額で21%減の1,321万ドルと数量、金額共に何れも低調な推移となっている。

このように、綿・糸・織物類の輸入が何れも落ち込んでいる中で、衣料品は、中国からの輸入が著増しており、布帛製衣料品が16%増の4億8,845万ドル、ニット製衣料品が14%増の3億4,045万ドルと2桁の増加を示しているのが注目される。



◎ 2006年1～6月の繊維品貿易・輸出は大幅増を維持、輸入は微増推移

【輸出】

—19%増の99億8,495万ドルと昨年に続き大幅増加を維持—

インドの2006年1～6月の繊維品輸出は、前年同期比19%増の99億8,495万ドルと、昨年同様クォーターフリーの恩恵を享受し、大幅な増加を記録している。

これを地域別に見ると、シェア39%の欧州は15%増、同28%の北米は18%増と両地域が2桁増となり、また同15%の東アジアは56%増と大幅な増加となった。東アジア向けの大幅増の最大要因は、中国向けの綿花の著増によるものである。この3地域で、全体の輸出の82%を占めている。

主要輸出国は、EU（35億8,716万ドル：15%増）、米国（26億457万ドル：19%増）、アラブ首長国（4億9,730万ドル：1%減）、中国（4億8,488万ドル：479%増）、カナダ（2億3,760万ドル：8%増）、バングラデシュ（2億987万ドル：41%増）、サウジアラビア（1億8,590万ドル：9%増）、日本（1億6,671万ドル：12%増）、トルコ（1億4,194万ドル：

12%増)、韓国(1億2,759万ドル:4%増)の順となっており、アラブ首長国を除いて全て好調な推移となっている。

品目別輸出を見ると、最大輸出品目は衣料品で、全輸出の49%を占めているが、内訳は、ニット製衣料品が24%増の18億3,179万ドル、布帛製衣料品が19%増の30億8,529万ドルと何れも好調で高い伸びを記録し、衣料品がインドの繊維品輸出を牽引している。

ニット製衣料品市場のベスト5は、EU(9億2,260万ドル:16%増)、米国(5億6,613万ドル:49%増)、カナダ(8,586万ドル:5%増)、アラブ首長国(8,540万ドル:11%増)、サウジアラビア(2,592万ドル:8%増)で、特に米国とEU向けで81%と圧倒的なシェアを占めており、揃って大きな伸びを記録している。

布帛製衣料品市場のベスト5は、EU(13億7,685万ドル:27%増)、米国(10億6,309万ドル:10%増)、アラブ首長国(1億5,012万ドル:18%増)、カナダ(7,853万ドル:18%増)、日本(7,626万ドル:31%増)で、布帛製衣料品と同様にEU、米国で79%と圧倒的なシェアを占めている。

織物類の輸出は、数量は横ばいとなっているが、単価の低下により、金額では6%減の11億2,731万ドルと逆に減少している。

主要織物では、綿織物が1%減の4億4,333万ドル、合繊長繊維織物が12%減の2億7,136万ドルと減少推移、一方、合繊短繊維織物は9%増の1億6,978万ドルと増加推移となっている。

綿織物市場のベスト5は、EU(9,219万ドル:1%増)、バングラデシュ(3,674万ドル:20%増)、アラブ首長国(3,437万ドル:10%増)、米国(3,411万ドル:5%増)、スリランカ(3,119万ドル:10%増)で、合繊長繊維織物のベスト5は、アラブ首長国(9,189万ドル:26%減)、EU(3,025万ドル:5%減)、サウジアラビア(1,987万ドル:89%増)、マレーシア(1,350万ドル:33%減)、スリランカ(1,191万ドル:8%減)となっている。

一方、原料関係の輸出は好調で、まず綿類は、合繊綿が大幅な減少となっているが、綿花が中国向けを中心に著増し、全体で218%増の6億8,522万ドルとなった。また、糸類は綿糸、合繊長繊維糸が共に好調で、全体として15%増の12億5,914万ドルとなっている。

【輸 入】

—4%増の13億5,014万ドルと微増推移—

輸入額は、輸出額の13.5%と、額は未だ小さい。織物は低調に推移しているが、原料類(綿・糸)及び衣料品は増加となっており、全体として、前年同期比4%増の13億5,014万ドルとなっている。

地域別では、東アジアが70%弱と圧倒的なシェアを占めており、4%増の9億3,758万ドル、シェア11%の欧州が1%増の1億4,621万ドル、同7%の北米は33%増の8,782万ドル、同6%の大洋州は11%増と主要地域は概ね増加しているが、その他の地域はアフリカを始め揃って大幅な減少となっている。

2006年1～6月のインドの繊維品輸出入状況

	輸 入				輸 出				前年比
	2005年実績		2006年(1～6)		2005年実績		2006年(1～6)		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計	TON	2,663,634	TON	1,350,144	TON	9,984,950	TON	287	119
スフ綿	TON	674,104	TON	208,881	TON	7,304	TON	12,302	168
合繊綿	TON	21,413	TON	6,553	TON	12,302	TON	39,531	66
(ポリエステル)	TON	58,365	TON	14,041	TON	29,365	TON	33,792	70
(アクリル)	TON	21,743	TON	9,275	TON	14,121	TON	3,685	33
糸合計	TON	13,322	TON	25,870	TON	1,963	TON	3,685	33
	TON	203,863	TON	469,758	TON	532,447	TON	1,281,933	112
人絹糸	TON	11,058	TON	48,203	TON	11,487	TON	34,642	100
スフ糸	TON	2,172	TON	5,145	TON	26,629	TON	66,468	125
合繊長繊維糸	TON	154,177	TON	299,052	TON	80,082	TON	141,806	120
(ナイロン)	TON	34,443	TON	103,783	TON	3,279	TON	11,378	60
(ポリエステル)	TON	107,038	TON	147,479	TON	72,309	TON	115,931	127
合繊短繊維糸	TON	19,123	TON	41,347	TON	64,311	TON	157,798	116
綿糸	TON	4,316	TON	12,540	TON	308,565	TON	828,434	120
織物合計	千SM	403,986	千SM	714,882	千SM	1,127,306	千SM	1,127,306	100
絹織物	千SM	70,126	千SM	192,574	千SM	19,653	千SM	174,001	90
人絹織物	千SM	6,000	千SM	6,427	千SM	8,946	千SM	14,635	85
スフ織物	千SM	4,052	千SM	6,008	千SM	4,306	千SM	9,145	76
合繊長繊維織物	千SM	130,041	千SM	119,395	千SM	194,059	千SM	271,357	95
(ナイロン)	千SM	7,571	千SM	10,887	千SM	9,060	千SM	13,383	183
(ポリエステル)	千SM	107,091	千SM	78,946	千SM	61,264	千SM	95,860	83
合繊短繊維織物	千SM	24,325	千SM	41,075	千SM	109,917	千SM	169,775	116
綿織物	千SM	128,360	千SM	259,252	千SM	311,796	千SM	443,331	104
毛織物	千SM	6,586	千SM	43,882	千SM	2,562	千SM	14,341	108
不織布	TON	14,094	TON	44,314	TON	50	TON	302	41
タイヤコード織物	千SM	56,994	千SM	208,677	千SM	2,923	千SM	8,908	181
コートツド織物	千SM	59,094	千SM	108,021	千SM	9,491	千SM	14,052	112
ニット生地	TON	28,747	TON	93,530	TON	9,491	TON	35,838	168
ニット製衣料								1,831,786	124
布帛製衣料								3,016,839	119
その他								5,061,213	109
								3,689,592	109
								1,914,318	109

単位:1000ドル

出所:インド通関統計

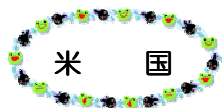
国別の主要輸入先は、中国（5億1,159万ドル：6%増）、EU（1億2,529万ドル：4%増）、米国（8,381万ドル：36%増）、台湾（6,916万ドル：21%減）、豪州（5,953万ドル：9%増）、香港（5,731万ドル：16%増）、韓国（4,378万ドル：20%減）、タイ（4,328万ドル：4%減）となっている。

品目別の輸入では、綿関係は、合繊綿が大幅に減少したが、スフ綿が大きく伸びトータルで2%減の3億8,393万ドルとなった。

糸関係は、太宗の合繊長繊維糸が若干の減少となっているが、人絹糸、綿糸が大幅に増加し、全体で10%増の2億4,692万ドルとなった。

織物関係は、太宗の綿織物は増加しているが、合繊長繊維織物、合繊短繊維織物、絹織物が減少し、全体で9%減の2億9,455万ドルとなった。

衣料品は、未だ額は僅少であるが、中国、EUを中心に、ニット製衣料品が37%増の898万ドル、布帛製衣料品が68%増の2,221万ドルと高率の伸びとなっている。



◎ 2006年9月の繊維品輸入・中国が40%のシェア

2006年9月の米繊維品輸入は3%増と、引続き堅調に推移している。地域別では、供給国第1位の中国を始め、インドネシア、ベトナム、インドなど東アジア諸国が大幅に伸び、特に中国は40%の大きなシェアを占めている。

【9月の輸入】

米商務省が発表した2006年9月の米繊維品輸入は前年同月比3.1%増の47億5,800万平方メートル換算（SME）となり、4月以降6カ月連続の増加を記録した。このうち、アパレルは前月（7.3%増）に続き9.2%増と大きく伸びたが、ノン・アパレル（糸、織物、その他繊維製品）は2.1%減で7カ月ぶりの減少となった。

地域別輸入では、供給国第1位の中国が19.2%増の19億200万SMEと、前月（14.8%増）に続き二桁増となり、その輸入量は全体の40%と大きなシェアを占め、他の供給国を凌駕している。

その他の東アジア諸国では、インドネシアが19.7%増、バングラデシュが18.0%増、ベトナムが16.5%増、インドが12.7%増と、いずれも大幅な増加となり、これら諸国が中国と共に9月の輸入増加の牽引役を果たしている。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	▲0.7	16,103	0.4	32,812	▲0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,829	6.8	22,010	10.3	50,839	8.3
1月	2,257	5.0	1,645	8.5	3,902	6.4
2月	2,206	17.3	1,760	2.2	3,965	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,068	5.8
4月	2,341	1.5	1,549	11.7	3,890	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	▲1.4	2,065	19.5	4,553	7.1
7月	2,353	0.1	1,990	7.3	4,344	3.3
8月	2,593	8.2	2,159	13.3	4,752	10.4
9月	2,487	12.0	2,127	8.9	4,614	9.6
10月	2,565	13.8	1,916	6.3	4,481	9.3
11月	2,419	9.8	1,770	8.3	4,190	9.2
12月	2,237	5.7	1,594	5.9	3,831	5.8
2006年	22,527	4.3	16,876	0.9	39,403	2.8
1月	2,503	10.9	1,698	3.2	4,201	7.6
2月	2,151	▲2.5	1,587	▲9.8	3,738	▲5.7
3月	2,361	0.9	1,687	▲2.4	4,048	▲0.5
4月	2,515	7.5	1,493	▲3.6	4,008	3.1
5月	2,706	6.2	1,669	▲2.1	4,375	2.9
6月	2,682	7.9	2,071	0.3	4,753	4.4
7月	2,519	7.1	2,032	2.0	4,551	4.8
8月	2,654	2.4	2,316	7.3	4,971	4.6
9月	2,434	▲2.1	2,323	9.2	4,758	3.1

注：前年比は増減、▲は減少。 出所：米商務省（DOC）

【1～9月の輸入】

2006年1～9月の米繊維品輸入は394億300万SMEで、前年同期比2.8%増となった。このうち、アパレルは2～5月の4カ月連続のマイナスが響いて0.9%の微増にとどまったが、ノン・アパレルはその他繊維製品を中心に4.3%増と堅調である。

1～9月の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

○ 主要地域別輸入では、ビッグ4（中国、韓国、台湾、香港）及びアセアン、更に「その他地域」の中のパキスタン、インド、バングラデシュなどの東アジア諸国からの輸入が活発に推移し、一方米近隣のNAFTA（北米自由貿易協定）パートナー（メキシコとカナダ）及びCBI（カリブ海沿岸諸国）は苦戦している。

○ ビッグ4からの輸入は7.2%増で、全体の42%と主要地域の中では最大のシェアを占めている。このうち、トップ・サプライヤーの中国は米政府の輸入規制により前年同期の46.0%増から7.2%増へと減速しているが、それでも全体の35%と大きなシェアを占めている。中国からの輸入では、衣料品と織物が減少したが、糸とその他繊維製品は大幅な増加となった。

その他では、韓国と台湾は織物を中心にそれぞれ9.2%、10.4%の増加となった。他方、香港は、衣料品が増加したが、織物とその他繊維製品の不振が足を引っ張って4.2%のマイナスとなった。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年 1-9月	前年 同期比
全世界	32,812	38,288	42,227	46,936	50,839	39,403	2.8
NAFTA	7,558	7,722	7,238	7,373	6,892	4,554	▲13.3
メキシコ	4,290	4,335	3,926	4,101	3,883	2,645	▲10.7
カナダ	3,268	3,387	3,312	3,272	3,009	1,909	▲16.7
CBI	3,704	3,830	4,046	4,168	4,169	2,834	▲9.7
ホンジュラス	1,032	1,099	1,165	1,209	1,262	862	▲8.3
エルサルバドル	768	817	895	895	897	551	▲18.4
ドミニカ共和国	773	743	758	772	725	448	▲19.4
ビッグ4	5,911	9,348	12,633	16,128	20,595	16,644	7.2
中国	2,211	4,963	8,288	11,662	16,766	13,650	7.2
韓国	1,383	2,032	2,097	2,301	2,028	1,610	9.2
台湾	1,224	1,391	1,356	1,302	1,083	897	10.4
香港	1,092	962	892	862	721	487	▲4.2
アセアン	4,390	4,766	4,980	5,140	5,145	4,424	16.1
タイ	1,308	1,316	1,098	1,114	1,052	779	▲0.5
インドネシア	1,165	1,215	1,151	1,275	1,354	1,228	21.8
フィリピン	916	817	794	711	643	539	12.4
ベトナム	33	358	827	905	950	890	26.4
カンボジア	389	474	561	673	740	655	21.0
EU（15カ国）	1,868	2,055	2,059	2,063	1,912	1,313	▲9.7
イタリア	521	518	533	462	385	245	▲19.0
ドイツ	457	551	484	479	453	301	▲11.6
その他	9,381	10,567	11,272	12,064	12,126	9,634	5.3
パキスタン	2,189	2,537	2,690	2,970	3,291	2,778	14.2
インド	1,250	1,545	1,666	1,915	2,335	2,021	15.1
バングラデシュ	1,169	1,150	1,110	1,109	1,314	1,142	14.1
トルコ	871	1,068	1,026	982	844	553	▲15.8

- アセアンからの輸入は 16.1%増と、主要地域の中では最も大きく伸びた。このうち、タイは織物とその他繊維製品の不調で 0.5%減となったが、ベトナムの 26.4%増を始め、インドネシア 21.8%増、カンボジア 21.0%増、フィリピン 12.4%増と何れも二桁増となった。なお、アセアンからの輸入は衣料品が主力で、全体の 74%を占めている。
- NAFTA パートナーからの輸入は低迷し、衣料品とその他繊維製品を中心とするメキシコは 10.7%減、糸と織物主体のカナダは 16.7%減となり、両国合わせて 13.3%減となった。なお、供給国の順位は、メキシコが第 3 位、カナダが第 5 位となっている。
- また、CBI からの輸入も 9.7%減と低調。そのうち、ドミニカ共和国が 19.4%減、エルサルバドルが 18.4%減、ホンジュラスが 8.3%減と、主要国は何れも減少となった。なお、CBI からの輸入は、アパレルが 97%と殆どを占めている。
- EU(15 カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツが共に織物の不振でそれぞれ 19.0%、11.6%の減少となり、全体で 9.7%減となった。
- 上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、インドが 15.1%増、パキスタンが 14.2%増、バングラデシュが 14.1%増と大幅な増加となった。これらの東アジア諸国は、いずれも「ポスト・クオータ」のメリットを活かして、衣料品とその他繊維製品を中心に対米輸出を活発に推進している。なお、このうち、パキスタンは供給国第 2 位、インドは同第 4 位に位置している。

◎ 2006 年 10 月の米大手小売店販売、引続き堅調

2006 年 10 月の米大手小売店の販売は、ガソリンの値下がりと涼しい天候を背景に秋物衣料品・アクセサリーを中心とする百貨店の好調な販売が貢献して、引続き堅調に推移した。

米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店の 2006 年 10 月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）3.0%増となった。大手小売店の売上高は、ここ 3 カ月、3%前後で堅調に推移している。

衣料品を中心とするストアの 10 月の小売販売では、百貨店が 6.2%の増加となったのに対し、衣料品専門店チェーンは 0.2%の微減となった。涼しい天候により秋物衣料品販売に追い風があったにもかかわらず、適切なファッション商品を提供しているか否かで明暗が分かれ、多くの百貨店にホットな風、衣料品専門店チェーンの多くにコールドな風が吹いた模様である。

10 月のストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

- 大手百貨店の 10 月の販売は、一部を除き、順調に推移した。特に、高級百貨店は、富裕

層の旺盛な購買に支えられて、ノードストロムが 10.7%増、サクスが 9.2%増、ニーマン・マーカスが 7.2%増と、何れも大幅に売上げを伸ばした。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年 月	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6	5.0
2	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9	3.2
3	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1	1.9
4	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2	6.6
5	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9	4.5
6	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2	2.6
7	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6	3.9
8	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6	2.9
9	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0	3.8
10	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4	3.0
11	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5	
12	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2	
年間平均	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

このうち、ノードストロムは、「10月の販売は、あらゆる地域のストアで増加となり、商品では女性用のインティメート・アパレル、デザイナー・アパレル、アクセサリ等の多くの品目が二桁増となった」と発表している。

また、ニーマン・マーカスの首脳は、「地域では南東部と西部、商品では女性用のコンテンポラリー・スポーツウェアとドレスの販売が好調であった」

と報告している。

また、サクスは、「女性用のクラシック及びコンテンポラリー・ブリッジ・ゾーン、デザイナーズ・ゴールド・レインジの各アパレル、アウターウェア、イブニングドレス、男性用のスポーツウェア、コンテンポラリー・アパレル、服飾品がベスト・セール品目であった」と説明している。

中級百貨店では、J.C.ペニーが 9.5%、フェデレーテッドが 7.7%、コールズが 4.2%のそれぞれ増加となったが、ボン・トン・ストアーズは 9.7%減、ディラードは 5.0%減となった。

このうち、フェデレーテッドについて、アナリストは、「従来からの傘下百貨店のメイシー、ブルーミングデールズに加え、メイ・デパートメントストアの買収・合併により、フェデレーテッドは全米の百貨店としての地位を確立しており、その上、10月に衣料品、家具の販売キャンペーンを全米で大々的に展開したことが、大幅な販売増に結びついた」と分析している。

また、J.C.ペニーは、「10月の大幅増は、男性・子供・女性用の秋物衣料とアクセサリーに対する消費者の旺盛な需要に支えられた」と説明している。

2006年10月の米主要小売店の販売状況

単位；100万ドル、%

小売店名	売上高	
		前年同月比
<百貨店>		
ボン・トン・ストアーズ	250	-9.7
ディラード	474	-5.0
フェデレーテッド	1,863	7.7
J. C. ペニー	1,538	9.5
コールズ	1,247	4.2
ニーマン・マーカス	343	7.2
ノードストロム	622	10.7
サクス	233	9.2
<衣料品専門店チェーン>		
アバークロンビー&フィッチ	217	-3.0
アメリカン・イーグル・ アウトフィッターズ	186	8.0
アン・テラー・ストア	185	-0.5
ドレス・バーン	114	5.0
エアロポステール	99	5.6
ギャップ	1,250	-7.0
リミテッド・ブランド	695	9.0
パシフィック・サンウェア	88	-7.1
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	4,054	3.9
T J X	1,500	5.0
ウォル・マート	19,693	0.5

○ 大手衣料品専門店チェーンの10月の販売は、全体として斑模様であった。

衣料品専門店チェーンのうち、若者向け専門店では、リミテッド・ブランドが9.0%増、アメリカン・イーグル・アウトフィッターズが8.0%増、エアロポステールが5.6%増と伸びたが、一方パシフィック・サンウェアは7.1%減、ギャップは7.0%減、アバークロンビー&フィッチは3.0%減と落込んだ。

このうち、アメリカン・イーグル・アウトフィッターズは、「大幅な販売増は、10月第4週から早めにクリスマス・ホリデー用商品を店頭で並べ、消費者の好反応を得たため」と語っている。

また、リミテッド・ブランドは、傘下小売店では、

リミテッド・ストア（女性用衣料品店）が4%減、エクスプレス（男性・女性用衣料品店）が1%の微増となったが、ビクトリアズ・シークレット（女性用下着店）とバス・アンド・ボディワークス（バス用品店）は共に14%増と大幅に伸び、全体の増加に貢献した。

一方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは9カ月連続のマイナスとなった。傘下ストアでは、バナナリパブリック（高級志向の衣料品店）が2%増となったが、ギャップ・ストア（ティーンエイジャー向け主体の衣料品店）は4%減、オールドネイビー（低価格路線の衣料品店）は11%減となった。同社首脳は「10月の売上高は全体で減少となったが、バナナリパブリックとギャップ・ストアを中心に、会社全体の商品マージンは上昇した」と説明している。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンの販売では、ドレス・バーンは5.0%増と順調に伸びたが、アン・テラー・ストアは0.5%の微減となり、明暗が分かれた。

このうち、アン・テラー・ストアは、部門別では、アン・テラー部門（高級衣料品店）が1.5%の微増ながら15カ月連続の増加を記録したが、アン・テラー・ロフト部門（手頃価格衣料品店）は3.4%の減少となった。同社首脳は「10月の売れ筋商品は、アン・テラー

部門ではドレス、スーツ、セパレート、アクセサリ、またアン・テラー・ロフト部門ではドレス、パンツ、ニット・トップス等であった」と発表している。

- 大手ディスカウント・ストアの10月の販売は、T J Xが5.0%増、ターゲットが3.9%増と堅調に推移したが、ウォル・マートは0.5%の微増にとどまった。

このうち、小売店最大手のウォル・マートは、「10月の販売は、ここ10年で最低の水準であった。これは、全米1,800店舗の改修と女性用衣料品の低調な販売によるもの」と語っている。



◎ 2006年1~6月の繊維品域外貿易・輸出は微増、輸入は2桁増

EU統計局EUROSTATによれば、2006年1~6月のEUの繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比1%増の231億1,449万ドル、輸入は10%増の476億3,136万ドルと、輸出は微増、輸入は2桁の増加推移となっている。

<輸出状況>

輸出を地域別にみると、欧州が45%のシェアを占め2%増、続いて東アジア（シェア18%）が1%増、北米（同14%）が4%減、アフリカ（同12%）が3%減となっており、この4地域で全体の89%を占めている。

国別のベスト10は、米国（28億696万ドル：5%減）、スイス（22億9,078万ドル：1%減）、ルーマニア（17億3,904万ドル：7%減）、ロシア（16億9,042万ドル：21%増）、トルコ（12億5,348万ドル：3%増）、日本（10億6,334万ドル：9%減）、チュニジア（10億5,871万ドル：10%減）、香港（9億7,550万ドル：3%増）、モロッコ（9億6,151万ドル：3%減）、ブルガリア（6億8,942万ドル：1%減）の順となっている。

品目別輸出では、原料関係は、綿類が数量で16%増の48万8,997トン、金額で12%増の9億4,192万ドルと数量、金額共に好調に推移、糸類は数量で3%増の22万3,282トン、金額で4%増の15億2,655万ドルと数量、金額共に堅調な推移となった。

一方、織物類の輸出は、数量で3%減の14億1,352万SM（平方メートル）、金額で8%減の46億8,677万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。

織物類輸出の内訳は、主力の綿織物が数量で5%減の5億3,238万SM、金額で9%減の19億1,221万ドル、合繊長繊維織物が数量で横ばいの4億2,182万SM、金額で7%減の6億8,058万ドル、合繊短繊維織物が数量で2%減の2億1,168万SM、金額で9%減の5億9,534万ドル、毛織物が数量で9%減の8,740万SM、金額で7%減の8億4,590万ドルで、主要品目は何れも低調な推移となっている。

EUの繊維品輸出の39%を占める最大輸出品目の衣料品は、ニット製衣料品が3%増の31億3,230万ドルと若干の伸びを記録したが、布帛製衣料品は横ばいの59億7,827万ドルに止まった。

<輸 入 状 況>

輸入については、地域別では、東アジアからの輸入が59%を占め18%増、続いてヨーロッパ（シェア26%）が1%増、アフリカ（同9%）が4%減となっており、この3地域で全輸入の94%を占めているが、中国には枠が再設定されたものの、その他の東アジアからの輸入増が目立っている。

国別のベスト10は、中国（123億8,128万ドル：5%増）、トルコ（70億6,586万ドル：2%増）、インド（40億1,027万ドル：17%増）、バングラデシュ（28億1,793万ドル：34%増）、ルーマニア（23億4,163万ドル：3%減）、香港（17億4,016万ドル：228%増）、チュニジア（17億1,103万ドル：7%減）、モロッコ（15億1,549万ドル：横ばい）、パキスタン（14億1,034万ドル：12%増）、インドネシア（10億9,830万ドル：31%増）、スイス（8億9,260万ドル：5%減）の順となっている。

2005年から枠が撤廃され、中国、インドがこの恩恵を受けて輸出を大きく伸ばしたが、2006年は、中国に枠が再設定され、中国からの輸入は減速しているが、その他香港、バングラデシュ、インドネシア、パキスタン等の東アジアからの輸入増大が大きな特徴となっている。

品目別輸入は、原料では、綿関係が数量で12%減の74万5,634トン、金額で8%減の16億6,596万ドルと数量、金額共に減少推移、糸関係は、逆に、数量で5%増の65万2,801トン、金額で7%増の22億399万ドルと数量、金額共に増加している。

織物関係では、太宗の綿織物の輸入が数量で15%減の11億1,816万SM、金額で1%増の10億7,247万ドルと数量減の金額微増、合繊長繊維織物が数量で43%減の5億8,953万ドル、金額で1%減の6億7,029万ドルと何れも低調推移、一方、合繊短繊維織物は数量で7%増の5億8,468万ドル、金額で16%増の4億7,439万ドルと高い伸びとなった。

また、全体の輸入の71%を占める衣料品は、ニット衣料品が13%増の150億7,011万ドル、布帛製衣料品も9%増の189億6,461万ドルと、中国に枠が再設定されたが、その他の東アジア諸国を中心に高い伸び率を記録している。

組合関係の会議と催事

【2006年11月】

輸出

- I. 平成18年度第2回保険・受渡委員会（書面審議）を執行。
- II. 平成18年度第3回「組合運営に関するタスクフォース」を開催。

輸入

- I. 「中国アジア専門委員会タイ・カンボジア調査ミッション」派遣。
- II. 「貿易実務研修会」（東京・大阪・名古屋各税関講師）を各地区で開催。

1日（水）

輸入（東京）経済産業省において「第2回繊維業界勉強会」が開催され、輸入組合・繊維貿易情報センター・神山主任研究員が「インド繊維動向」のレクチャーを行った。

6日（月）

輸入（東京）高橋公認会計士による上期会計監査が行われた。

10日（金）

輸出（大阪）平成18年度第2回保険・受渡委員会（安藤委員長）の書面審議が執行され、消費財包括保険の地域差料率（国倍率）引き下げ要望について承認された。

輸入（東京）繊維貿易情報センター・古宮主任研究員との貿易政策研究に関する打合せが行われた。

13日（月）

輸出（大阪）独立行政法人日本貿易保険(NEXI)担当官と事務局の打合せ会が開催され、NEXI側より提起された不正競争防止法に基づく誓約書提出問題について検討が行われた。

14日（火）

輸出（大阪）経済産業省・大久通商室長と事務局・内海専務理事等の打合せ会が開催され、FTA問題などについて意見交換が行われた。

輸入（名古屋）「貿易実務研修会」（名古屋地区）が開催され、名古屋税関担当官を講師に各項目の研修が行われ、名古屋地区組合員21名が聴講された。

16日（木）

輸入（東京）「第64回貿易制度専門委員会」（大迫委員長）が開催され、①「中国交通部の日中航路海上運賃についての通達」②「消費生活用品安全法の一部を改正する法律案」③最近の事後調査の状況④その他（暫8改正要望、環境リサイクルG韓国調査報告）について、それぞれ討議と情報交換が行われた。

20日（月）

輸入（大阪）「中国アジア専門委員会タイ・カンボジア調査ミッション最終打合せ」が行われた。

21日（火）

輸入（大阪）「貿易実務研修会」（関西地区）が開催され、大阪税関担当官を講師に各項目の研修が行われ、関西地区組合員 125 名が聴講された。

22日（水）

輸入（東京）「貿易実務研修会」（関東地区）が開催され、東京税関担当官を講師に各項目の研修が行われ、関東地区組合員 104 名が聴講された。

26日（日）～12/2（土）

輸入（タイ・カンボジア）「中国アジア専門委員会タイ・カンボジア調査ミッション」（細田 団長）が派遣された。

30日（木）

輸出（大阪）平成 18 年度第 3 回「組合運営に関するタスクフォース」（三浦議長）が開催され、今後の繊維輸出振興対策などについて検討が行われた。

12月のスケジュール（12月7日現在）

3日（日）～ 10日（日）	輸入	（タイ）	繊維貿易情報センター・古宮主任研究員の現地調査
4日（月）	輸出	（大阪）	繊維団体新年名刺交換会打合せ会
6日（水）	輸入	（大阪）	日本黄麻製品輸入協議会 第 121 回運営委員会
8日（金）	輸入	（大阪）	第 28 回綿委員会
12日（火）	輸入	（東京）	第 65 回貿易制度専門委員会
13日（水）	輸出入	（大阪）	近畿財務局のヒアリング
15日（金）	輸入	（鹿児島）	第 68 回アパレル委員会
19日（火）	輸出入	（上海）	第 2 回上海分会
20日（水）	輸出入	（東京）	綿製品懇談会

◎ 消費財包括保険の地域差料率（国倍率）の引下げを要望（輸出組合）

輸出組合は、貿易保険当局における消費財包括保険等の地域差料率（非常危険てん補に係る保険料計算に際し、基本料率に掛けられる国別の倍率）の見直しに備え、関心の強い2カ国について、11月21日付で独立行政法人日本貿易保険理事長宛に、下記内容の地域料率（国倍率）引下げ要望書を提出した。

消費財包括保険の地域差料率（国倍率）引下げについて要望の件

拝啓 時下益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

平素は繊維品包括保険につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

併せ、消費財包括保険におきましての地域差料率では、一部の国・地域につきまして引下げが実施されましたことには深謝致しております。

ご高承のとおり、我が国の繊維品輸出は高級品分野では欧米先進諸国と、また一般品分野では東アジア諸国等発展途上国との激しい競争下にあります。取引形態等が多様化するなかで東アジア市場は全世界向けの80%弱を占める重要な市場となっております。

そのうち、中国向けは全世界向けの40%強を、また香港向けにおいても10%強を占める市場となっており、これら地域向け輸出におきましても常々貿易保険による安心感をもって輸出取引の増進に努力してきておりますが、当該市場に対する地域差料率はなお比較的高水準であるとの認識を持っております。

つきましては、コスト削減が急務となっている繊維品輸出業者にとりましては地域差料率の引下げが極めて重要な事柄でありますので、下記のとおり両国の料率引下げについて要望いたしますので、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 対象国／地域及び国倍率

対象国／地域	現行国倍率	要望国倍率
中 国	2. 0 倍	0. 2 倍
香 港	2. 0 倍	0. 2 倍

2. 理 由

① 中 国

○ 中国は、現在、我が国の全繊維品輸出の40%強を占める最大の市場であり、その大部分は日本から原材料を輸出して現地で加工後我が国に輸入する所謂“持帰り用輸出”であり、一部には現地調達化の方向が見受けられるが、この持帰り用輸出は依然堅調に推移しており、

また第三国向けに輸出される加工再輸出用輸出においても取引上のトラブルもなくスムーズに決済されている。

- 中国は、外貨準備高が、今年 1 月末に我が国を超え、世界第一位となり 9 月末においても引続き世界一を維持している。また、中国は 2008 年に北京オリンピック、また 2010 年には上海万博と 2 つの大きなイベントの開催が予定され、高度経済成長を続け貿易、先進技術導入、外資導入等の国際関係を強化するため、通商関連法規を始め各種整備が進められ、各国の対中国貿易には安定性と信頼性が増し、中国繊維産業も引続き成長を維持し、さらに拡大する見通しである。
- 2005 年 7 月の人民元切り上げ(2.1%切り上げの 1 ドル=8.11 元)から 1 年数ヶ月、本年 10 月現在においても人民元は 1 米ドルに対し 7.9 元台と上げ幅はわずかであり、日本の繊維産業に大きな影響は出ていない。また、中国政府は本年 9 月 14 日付けで輸出に係わる増値税還付率を 13%から 11%に引き下げたが、衣料品は対象外で引下げは行われなかったことから、日本の繊維輸出への影響は殆ど見られない。
- 中国は 2001 年 12 月に WTO に加盟し、これに伴い関税率の引下げ、市場の開放等、経済システムへの改革を進めており、しかも中国の経済が大きな伸びで進むなか、中国市場は、生産拠点としてだけでなく、潜在的な大きな消費市場としてのチャンスを秘めている。我が国繊維産業にとっても、中国市場はビジネス面で大きな魅力があり、中国繊維産業との共存・共栄を図る外、我が国の繊維製品の輸出市場としても非常に重要であり有望な市場と思われる。
- 中国向け輸出は、取引相手先の多くが我が国の合弁企業であることもあって、これまで信用危険事故はもとより非常危険事故による保険求償も全くなく、極めて保険リスクの低い国である。
- 従って、中国の国倍率については、先進国並みの 0.2 倍を適用されることを要望します。

② 香 港

- 我が国の香港向け繊維品輸出取引は従来から期近積みが多く、代金決済も米ドルとリンクした通貨による短期決済である等良好な取引環境にあり、我が国の繊維品輸出に係る保険事故発生の危険性は極めて少ない安定した市場であり、繊維品の輸出市場としては依然大きなものがある。
- 香港は、生産拠点としては、中国本土に流れたが、これまで香港が培ってきた優れた国際ビジネス機能を基盤とした先進国並みの取引環境を維持し、活発な対外経済活動を推進している。
- 香港の貿易決済、金融、マーケティング等世界の情報を収集する拠点としては中国の中でも香港は圧倒的な魅力を持っている。
- 今後とも香港向け繊維品輸出を維持・拡大していく為にも、香港の国倍率については、先進国並みの 0.2 倍を適用されることを要望します。

組合業務報告

－「中国アジア専門委員会タイ・カンボジア調査ミッション」派遣概要－

日本繊維輸入組合

中国アジア専門委員会では所管地域での各国繊維業調査を行っているが、今年度はアジア諸国の中でも自国に素材産業の背景を有する衣類輸出国であり、また、我国との FTA 締結が包括合意済みであるタイと、並びに近年衣類の生産加工基地として注目されつつあるカンボジアへミッションを派遣し、現地での調査を行った。

「中国アジア専門委員会タイ・カンボジア調査ミッション」

1. 実施時期 : 2006年11月26日(日)～12月2日(土)
2. 派遣先 : タイ・カンボジア
3. 団員構成 : 以下団員名簿参照
4. 内 容 :
 - ・タイでは SAHA GROUP 傘下企業及び現地日系企業等の織布、染色及び縫製の各段階の多くの企業とその工場を訪問視察して、具体的に各社の最新製品を手に取りながら、対日輸出等の可能性について調査を行った。
 - ・カンボジアでは外資系、民族系企業の縫製工場を訪問して、今後の衣類の対日輸出国としての可能性を調査した。

団 員 名 簿

	会 社 名	氏 名	役 職 名
団 長	伊藤忠商事(株)	細 田 薫	繊維カンパニー エグゼクティブバイスプレジデント付
副 団 長	豊田通商(株)	井 谷 茂	トーマンホットライン(株) 常務取締役 営業本部長
団 員	蝶理(株)	汪 奮 毅	アパレル第1部部長
団 員	興和(株)	鈴 木 大 慈	テキスタイル部2課2係
団 員	神栄(株)	森 明 弘	繊維製品部 アパレル第一グループマネージャー
団 員	住友商事(株)	大 塚 徹 男	繊維原料・産業資材部 副部長
団 員	(株)ヤギ	有 馬 浩 久	営業第二本部 第三事業部 事業部長
団 員	丸紅泰国会社	鎌 木 康 弘	丸紅泰国会社
団 員	日本繊維輸入組合	古 宮 滋	主任研究員
事 務 局	日本繊維輸入組合	江 花 徹	業務部 参事
事 務 局	日本繊維輸入組合	森 昇	業務部 主事
通 訳	HNP LEGAL COUNSELLORS LIMITED	秋 場 理	コンサルタント

タイ・カンボジア調査ミッション日程表

日次	月日	交通機関名	都市名	現地時刻	概要	
1	11月26日(日)	JL1303	羽田空港 関西空港	06:50 08:10	東京出発者	
		TG623	関西空港 バンコク	11:10 15:30	関西空港 発【所要時間：6時間20分】 バンコク 着【対日時差-2時間】	
		専用バス		18:50	夕食：チャイナパレスレストラン（中華料理） 宿泊：PAN PACIFIC HOTEL	
2	11月27日(月)	専用バス	バンコク	07:45	ホテル出発	
				09:00	・TTI社(THAI TEXTILE INDUSTRY PUBLIC CO.,LTD.) 広幅織布 / 糸染織物 ・TTP社(THAI TEXTILE PRINTING (1980) CO.,LTD.) 液体アンモニア加工 ・TTIG社(TTI GARMENT CO.,LTD.) アパレル生産 対応：Mr.カムジョン常務、Mr.プラモート	
				11:45	昼食：TTI 招待昼食	
				12:30	出発～移動	
				13:30	・THANULUX社(THANULUX PUBLIC CO.,LTD.) 縫製工場 メンズシャツ / 布帛 SAHA GROUP プレゼン / 工場見学 / 商品展示 / 質疑応答 対応：Mrs.ワリン社長、Mr.マヌー (SAHA GROUP 幹部)	
				16:30	出発～移動	
				17:00	・EVEREST TEXTILE (Thailand) CO.,LTD 台湾系長繊維織布メーカー / アウトドア・スポーツ用生地 対応：Mr.マイケル	
				18:00	出発～移動	
				19:00	夕食：COCA レストラン（タイスキ） 宿泊：PAN PACIFIC HOTEL	
3	11月28日(火)	専用バス	バンコク	07:30	ホテル出発	
				08:15	・S.APPAREL CO.,LTD. メンズ・シャツ縫製	
				10:00	・FIVE STARS PLUS CO.,LTD. 革ジャケット、コート製造	
					11:00	出発～移動
				シーラチャ	12:00	昼食：SRINIYOM RESTAURANT（飲茶）
			14:00		SHIRACHA INDUSTRIAL PARK (SAHAPAT INDUSTRIAL ESTATEGROUP) ・ITL社（リーガルシューズ）	
			15:10		・WHY社 鞆製造 ・THAI MONSTER社 ニットシャツ縫製 ・SR-W GARMENT CO.,LTD.（タイワコール）	
16:40	出発～移動					
		17:20	宿泊：THE MONTIEN HOTEL PATTAYA			
4	11月29日(水)	専用バス	シーラチャ	14:00	・ホテル出発	
				16:00	・空港チェック・イン	
		TG-698	バンコク プノンペン	18:15 19:30	バンコク 発【所要時間：1時間15分】 プノンペン 着【対日時差-2時間】 宿泊：HOTEL CAMBODIANA	
5	11月30日(木)	専用バス	プノンペン		ホテル出発	
				午前 13:00	Kong Hong Garment(Cambodia) DAJOO CAMBODIA Ltd.(Korea) 宿泊：HOTEL CAMBODIANA	
6	12月1日(金)	専用バス	プノンペン		ホテル出発	
			プノンペン バンコク	10:05 11:10	プノンペン 発【所要時間：1時間05分】 バンコク 着【対日時差-2時間】	
		専用バス	バンコク	13:30	PAN PACIFIC HOTEL チェックイン	
				15:00	・TOKAI DYEING CO.,(THAILAND) LTD.(東海染工) プレゼン / 工場見学	
		18:30	夕食：BAAN-KLANG-NAAM2（タイ料理） 宿泊：PAN PACIFIC HOTEL			
7	12月2日(土)	専用バス	バンコク	10:00	ホテル出発	
			バンコク 関西空港	13:00 20:10	バンコク 発【所要時間：5時間10分】 関西空港 着	

輸入

組合業務報告

- 「第 15 回貿易実務研修会」(東京/大阪/名古屋) を開催 -

日本繊維輸入組合

輸入組合は組合員の通関業務の一層の円滑化を図ることを目的とし、輸入通関手続きに関する基礎的な知識修得のため、組合員・新入社員クラスの貿易業務担当者を対象として「第 15 回貿易実務研修会」を東京・大阪・名古屋で開催した。

<敬称略>

関西地区

日 程 : 2006 年 11 月 21 日 (火)

場 所 : 輸出繊維会館地下 BM 大ホール

参加者 : 125 名

時間・科目及び講師 :

時 間	科 目	講 師
10:30 12:00	「関税評価」について	大阪税関 業務部 特別価格審査官 藤田 一雄
13:00 14:00	「知的財産権」について	大阪税関 業務部 知的財産調査官 北畠 崇夫
14:15 15:15	「HS2007 年改正」について (繊維関係)	大阪税関 業務部 首席関税鑑査官 藤枝 俊雄
15:20 16:50	「加工再輸入減税制度」について	大阪税関 業務部 通関総括第 3 部門 上席審査官 船津 明秀

名古屋地区

日 程 : 2006年11月14日(火)

場 所 : 名古屋商工会議所 第4会議室

参 加 者 : 21名

時間・科目及び講師 :

時 間	科 目	講 師
10:00 11:50	「輸入申告手続きについて」	名古屋税関 業務部 通関総括第1部門 上席審査官 服部 裕二
13:10 14:20	「商品分類について」	名古屋税関 業務部 関税鑑査官 原 聡子
14:30 15:40	「加工再輸入減税制度について」	名古屋税関 業務部 通関総括第2部門 上席審査官 高見 公太郎
15:50 17:00	「関税評価について」	名古屋税関 業務部 特別価格審査官 藤田 訓史

関東地区

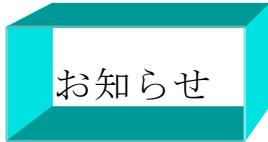
日 程 : 2006年11月22日(水)

場 所 : 東京ファッションタウンビル 東館9階904研修室

参加者 : 104名

時間・科目及び講師 :

時 間	科 目	講 師
10:00 11:30	「輸入手続きについて」	東京税関 業務部 通関総括第1部門 上席審査官 笠松 敏
12:30 14:20	「輸入通関時の商品分類について」	東京税関 業務部 首席関税鑑査官 関税鑑査官 久保 久男
14:10 15:40	「関税評価制度について」	東京税関 業務部 統括調査官付上席調査官 (評価第3部門担当) 三浦 仁
15:50 17:20	「加工再輸入減税制度について」	東京税関 業務部 通関第2部門 上席審査官 近藤 昌伸
	「原産地認定基準について」	東京税関 業務部 総括原産地調査官 上席調査官 渡瀬 順司



◎ 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」（輸出組合）

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 19 年 1 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 18 年 7 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成 18 年 1 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

（注）当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 19 年 1 月 22 日（月）
2. 提出書類：① 貿易一般保険包括保険（繊維品）
 保険期間延長依頼書 2 通
 （用紙は事務局で準備しています。）
 ② 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先：総務部（☎06-6201-1832）

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。（FAX:06-6201-1814）
 保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2006 年 7 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6	103584～ 104189 ----- 506931～ 507934	101825～ 102080	100152～ 100172

前受け以外に係る 2006 年 1 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6	100001～ 100628 ----- 500001～ 500906	100001～ 100283	100001～ 100030

お知らせ

－ 2007 年 1 月の輸入通関手続相談窓口開設日 －

2007 年 1 月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫 8 手続等々通関業務諸問題
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2007 年 1 月 10 日（水）及び 1 月 24 日（水）
2. 場 所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時 間 午後 1 時より午後 5 時まで
4. アドバイザー 片 山 喬 次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03 (3270) 0791

Fax 番号 03 (3243) 1088

E - Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

－2006年税関の年末・年始事務処理要領－

（東京税関）

東京港における年末年始の通関業務等取り扱いのご案内

税関では平成15年7月より税関の執務時間外における通関体制を整備しており、年末年始におきましても通関業務等を行うこととしております。つきましては、業務の集中等が考えられることから業務を円滑に行うため、下記のとおり取扱いをいたしますのでご協力をお願いいたします。

- 12月28日（木）までの通関業務について
 - ・ 予備審査制等により早めの申告をお願いいたします。

- 12月29日（金）から1月3日（水）までの通関業務等について
 - (1) 予定表の提出のお願いについて
 - ・ 事前に予定が判明している場合には、「**輸出入申告予定表**」（別紙様式1）を28日（木）17：00までに、「**保税事務取扱予定表**」（別紙様式2）を28日（木）午前中までにそれぞれ貨物蔵置場所の管轄の税関官署通関総括部門又は保税部門に提出をお願いいたします。
 - ・ 28日（木）17時以降に予定が判明した場合は大井出張所検査・特別通関部門に連絡をお願いいたします。
 - (2) 通関業務等について
 - 大井出張所検査・特別通関部門では、1月1日を除いて、本関、晴海出張所（海上貨物に限る）、芝浦出張所、大井出張所の管轄の下記の業務を行います。
 - ① 輸出入通関業務
 - ② 積載船名等変更の取扱い（受付時間以外は、監視部監視取締部門に提出願います）
 - ③ 保税運送の承認及び到着確認、コンテナリストの受理
 - ④ 搬入事故等が発生した際の連絡受付（ただし、大井出張所検査・特別通関部門で通関される貨物に限る）

大井出張所検査・特別通関部門
受付時間：08：30～17：00
所在地：東京都大田区東海4-1-10
電話：03-3790-6819
FAX：03-3790-6819

(3) 緊急時の連絡について

- ① 大井出張所検査・特別通関部門の受付時間外の上記(2)①～④
- ② 大井出張所検査・特別通関部門で通関される貨物以外の搬入事故等は、下記まで連絡をお願い致します。

本関連絡窓口TEL 03 - 3599 - 6286 Fax 03 - 3599 - 6446

- ご不明な点がございましたら、各署所の**通関総括部門又は保税部門**にお問い合わせください。
- 各署所の通関総括部門、保税部門の連絡先

本関	通関総括第1部門	03 - 3599 - 6337
	保税取締部門	03 - 3599 - 6424
晴海出張所	通関総括部門	03 - 3532 - 2785
	保税部門	03 - 3532 - 2788
芝浦出張所	通関総括部門	03 - 3455 - 4542
	保税部門	03 - 3455 - 4942
大井出張所	通関総括第1部門	03 - 3790 - 6812
	保税取締部門	03 - 3790 - 6853～4

(大阪税関)

業務揭示第73号

年末・年始における輸出入貨物の取扱事務について

大阪税関においては、平日夜間、休日等執務時間外における輸出入貨物の通関需要に対応するため、南港出張所特別通関部門及び関西空港特別通関部門に職員を常駐させるとともに、各官署においても常駐時間外の連絡体制として緊急連絡窓口を設置しております。

来る年末・年始期間につきましても、下記のと通りの体制で輸出入通関業務及び保税業務を行います。

[年末・年始期間：平成18年12月29日(金)～平成19年1月3日(水)]

平成18年11月30日

大阪税関長 西村 尚剛

記

I. 官署別取扱事務

1. 本関及び本関直轄出張所(桜島、富島、安治川、南港、大手前及び大阪航空貨物出張所)管内に蔵置されている貨物

年末年始期間中は、**南港出張所特別通関部門において業務を行います(08:30～17:00)**。
各官署は当該期間中、原則として閉庁します。

12月31日（日）及び1月1日（月）につきましては、南港出張所特別通関部門に職員は常駐しておりませんが、電話は連絡専用窓口に自動転送されます。

なお、取扱業務について御不明な点がある場合は、あらかじめ管轄官署にお問い合わせください。

2. 関西空港税関支署管内に蔵置されている貨物

年末年始期間中は、関西空港税関支署特別通関部門において業務を行います（終日職員が常駐）。

3. その他の支署・出張所管内に蔵置されている貨物

各支署・出張所については、原則として閉庁します。

ただし、事前の申出があった場合には対応いたしますので、12月28日（木）午後5時までに各支署・出張所に御相談ください。

II. 緊急連絡先

緊急時には各官署の緊急連絡窓口又は次の部署に御連絡ください。

南港出張所 特別通関部門（Tel 06-6614-5308）

関西空港税関支署 特別通関部門（Tel 0724-55-1719、1720）

掲載

※大阪税関ホームページ（<http://www.osaka-customs.go.jp/>）でも御案内しております。

（神戸税関）

神戸税関

年末年始における税関手続の取扱いについて

神戸税関では、神戸港の年末年始（平成18年12月29日（金）から平成19年1月3日（水）の間）における輸出入通関及び保税に関する事務並びに外貨船用品（機用品）積込承認事務について下記のとおり取り扱います。

記

1. 輸出入通関及び保税に関する事務

ポर्टアイランド出張所特別通関部門（以下「特別通関部門」という。）において8時30分から17時までの間、輸出入通関手続全般及び輸出入通関に関連する保税手続に関する事務を取り扱います（12月31日及び1月1日を除く。）。

2. 外貨船用品（機用品）積込承認に関する事務

監視部取締部門（本部）において取り扱います。

3. 年末年始における連絡先

税関手続に関する連絡先は下記にお願いします。

(1) 上記1に関する事務

① 8時30分から17時まで（12月31日及び1月1日を除く。）
特別通関部門 TEL078-303-3623

② 上記以外

時間外連絡窓口 TEL078-333-3000

(2) 上記2に関する事務

・監視部取締部門（本部） TEL078-333-3048

(3) その他税関手続に関する事務

・時間外連絡窓口 TEL078-333-3000

また、神戸税関ホームページ〔<http://www.kobe-customs.go.jp/>〕にも掲載しておりますので、併せて御案内いたします。

（名古屋税関）

年末年始の税関業務処理体制について

名古屋税関

名古屋税関本関並びに中、稲永、金城埠頭、南部、及び西部の各出張所における年末年始の通関・保税・監視事務については、下記のとおり取り扱います。

なお、年末は、輸出入申告等が集中することも予想されますが、税関においては、迅速・適正な業務処理に努めてまいりますので、関係各位におかれましても、申告・申請等の手続については、できるだけ早めに行っていただきますようご協力をお願いします。

記

1. 輸出入通関・保税関係手続

月 日	本関並びに稲永、金城埠頭、南部及び西部の各出張所	中出張所
12月29日(金) 12月30日(土)	業務部特別通関部門（電話：052-654-4117）において処理いたします。 職員常駐時間 08：30～17：00	12月28日(木) 午後5時までに ご連絡ください。
12月31日(日)	通常の日曜日と同様、職員は常駐いたしません。 前日までに通関予定が判明している場合は、職員常駐時間内に、業務部特別通関部門にご連絡ください。	
1月1日(月)	終日閉庁	
1月2日(火) 1月3日(水)	業務部特別通関部門（電話：052-654-4117）において処理いたします。 職員常駐時間 08：30～17：00	

(注) 保税業務については、包括保税運送承認等、特別通関部門では処理できない業務があります。

ご不明な点は、12月28日（木）までに監視部保税取締部門（電話：052-654-4094）まで

照会願います。

- ◎ 職員常駐時間外に緊急の用件が生じた場合は、次へ照会願います。
監視部監視取締部門 電話：052-398-4246

2. 監視関係手続

月 日	監視部取締部門	監視部許可通関部門、南部及び西部出張所
12月29日(金) ～ 1月3日(水)	通常どおり	監視部監視取締部門本部において処理いたします。

3. その他

名古屋税関本関並びに中、稲永、金城埠頭、南部、及び西部各出張所以外の官署における年末年始の税関業務処理体制については、それぞれの官署から関係者にお知らせすることとしております。

以上